

[様式第3号]

資料提供年月日	平成28年7月12日	
問い合わせ先	課名	文化振興課
	電話	直通 803-1054 内線 3740
担当者	氏名	課長 岸 主査 檀本

広 報 連 絡

<市長定例記者会見資料>

- 1 件 名 新しい文化芸術施設について
- 2 内 容 新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画の策定について

千日前地区市街地再開発事業地にて実施することとし、それを踏まえ「新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画」を策定し、文化振興課HPへ掲載しました。

新しい文化芸術施設では、「魅せる」「集う」「つくる」という活動を中心に事業を展開。

◇特色

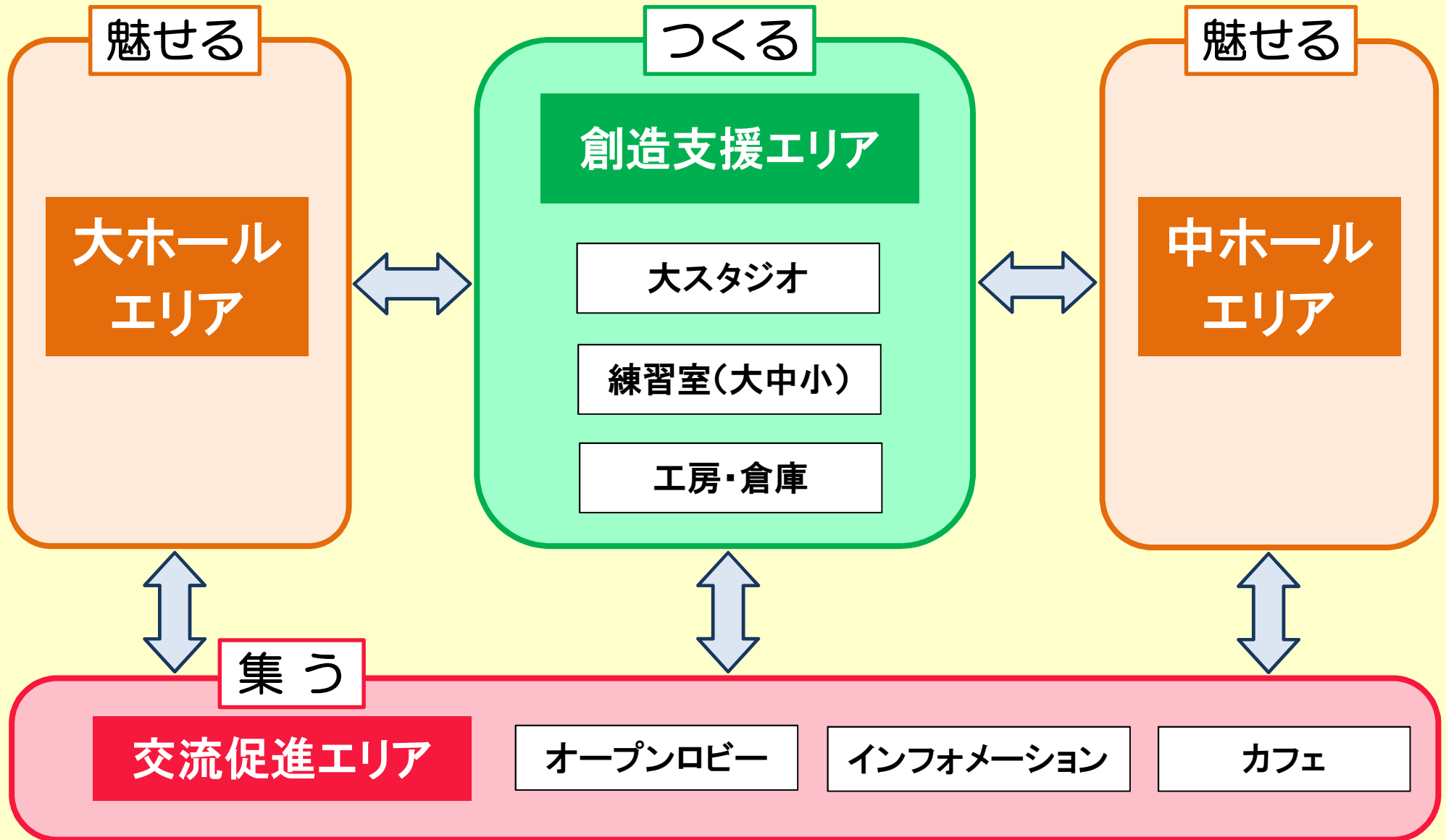
- “魅せる”：これまでより大規模な公演ができる施設として、舞台機能等を充実させた大ホールと中ホールを設ける。
- “集う”：いつでも誰でも気軽に立ち寄り、憩えるオープンロビーやカフェなど世代やジャンルを越えた人々の交流の機会を創出するスペースとして、交流促進エリアを設ける。
- “つくる”：新たな文化芸術を創造する活動や文化の担い手を育成する活動を促進していくために、稽古やリハーサル、小規模な発表会などが行える大スタジオや大中小の練習室などを備えた創造支援エリアを設ける。

3 参考資料

- 『新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画』機能イメージ図
- 新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画（全文冊子および概要版）

※本日からホームページでご覧いただけます。

機能イメージ図



6 施設整備事業費などの考え方 (P. 42~44)

【建設費及び概算整備費】

- 近年整備された文化芸術施設の建設事例によると、床面積1㎡当たりの建設費は約75万円程度(税抜)となっています。ただし、国土交通省が示す労務費単価の上昇や、東京オリンピック開催に伴う建設需要の高まりによる資材費の高騰などの要因により、今後変動していく可能性があります。
 - 新しい文化芸術施設は市街地再開発事業により整備された建物の一部を、市が保留床として取得するため、整備費は市街地再開発事業において算出される保留床取得額(*)となります。
- (*)保留床取得額とは、施設の建設費だけでなく、施設の整備に必要な経費の一部を含め、施行者から保留床として買い取るために必要な費用です。
- 整備費の財源として、有利な財源である合併推進債を活用し、実質的な市の負担軽減を図ります。なお、合併推進債を活用するために平成33年度末までの施設整備が必要となります。

【運営費等の考え方】

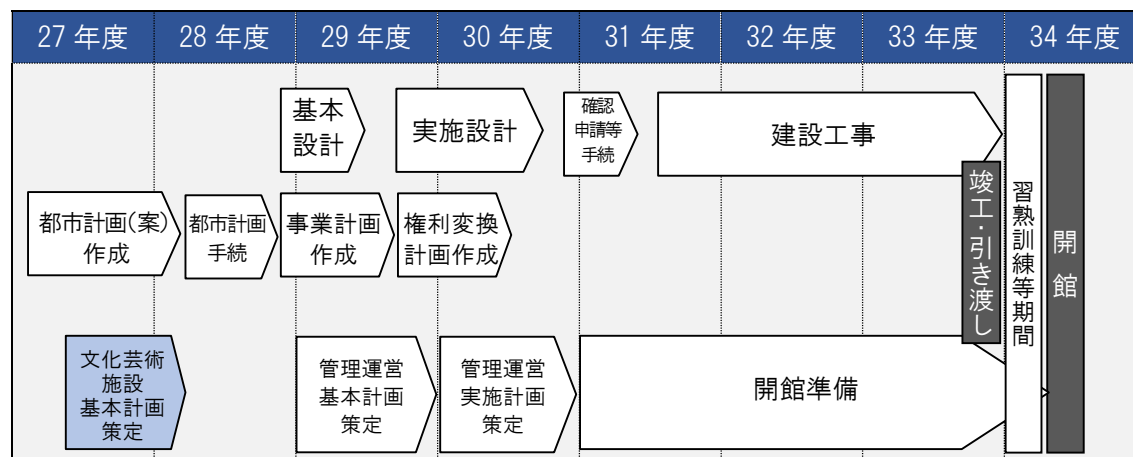
- 新しい文化芸術施設は、岡山市の文化振興施策を具現化させていくための拠点施設として運営します。市の文化事業を継続的かつ効果的に展開していくためには、一定の経費の支出(岡山市の将来に向けた文化への投資、文化を活かしたまちづくりへの投資)が必要となります。
- 事業や活動を継続的に行うためには、使用料収入や事業収入を高めることや、外部からの助成金などを積極的に得るなど、自己財源比率を高めるように努める必要があります。

収入の考え方	支出の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・使用料収入の確保 ・外部からの資金の確保などによる事業費における自己財源比率の向上 ・再開発施設全体としての営業活動による独自財源の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費 ・柔軟性の高い組織体制 ・効果的かつ効率的な維持管理の実践 ・複合化された施設としての必要経費

7 整備スケジュール (P. 45~48)

開館までのスケジュールは以下を想定しています。

文化事業は開館後の事業を視野に入れ、開館前から開始し、舞台設備は特殊な機能を備えることから、開館後の運営体制を踏まえ、できるだけ早期から専門性を備えた劇場・音楽堂等施設での業務経験を有する人材を配置し、開館までの業務を推進することが必要となります。事業や施設運営関連に関しては、今後、詳細な検討を行います。



【今後の検討課題の整理】

- 地域の活性化と継続的な賑わい創出に向けた検討
- 再開発施設としての検討
- 整備推進体制の構築
- 事業内容・管理運営の検討
- 公共交通からのアクセス性の向上
- 駐車場の検討
- 施設整備情報の公開と市民意見の聴取

【概要版】新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画 ～集い、魅せる、つくる 躍動するまちを目指して～

平成28年6月 岡山市

1 新しい文化芸術施設の整備方針と役割 (P. 1~6)

「基本計画」は、これまでの検討経緯を踏まえ、有識者のご意見や、パブリックコメントなどによる皆様からの様々なご意見を参考にして、「千日前地区市街地再開発事業地」を整備地として、新しい文化芸術施設の整備方針を具体的に整理したものです。

【新しい文化芸術施設の整備方針】

- 現在、岡山市で行われている事業や活動を支援するとともに、自ら創造していくための礎を築いていきます。
- 岡山市域に新たな賑わいを創出することができる事業や活動を再開発地域と一体となって行います。
- 岡山市が誇れる新たな価値を創造することができる事業や活動を展開していきます。
- これまでの市民活動を支えるとともに、岡山市が誇れる舞台芸術、音楽芸術を育み、創り出し、発信させていくための機能を備えた施設整備を目指します。
- いつでも誰でも気軽に立ち寄り、憩うことができる機能を備えた施設整備を目指します。

2 事業の考え方 (P. 7~9)

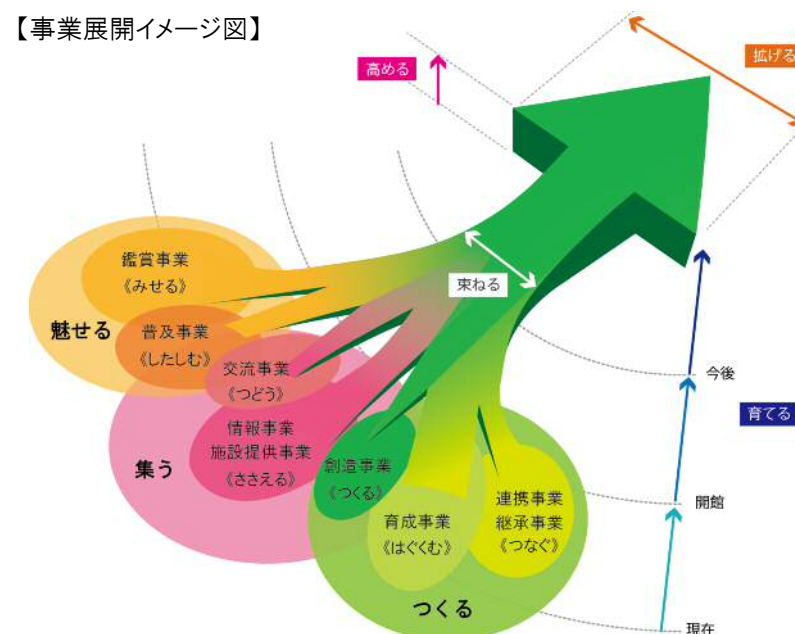
魅せる	鑑賞事業《みせる》 普及事業《したしむ》
集う	交流事業《つどう》 情報事業、施設提供事業《ささえる》
つくる	創造事業《つくる》 育成事業《はぐくむ》 連携事業、継承事業《つなぐ》

新しい文化芸術施設は、「魅せる」「集う」「つくる」という活動を中心として事業を展開していきます。

これまで岡山市内で実施されてきた「魅せる」「集う」といった活動をより一層強化するとともに、芸術文化団体や市民が行ってきた様々な創作活動を支援し、新たな文化芸術の創造につなげていくために、「つくる」活動を実践していきます。

さらに、これらの活動に多くの人々が参加し、また市民と協働することで、様々な事業の充実を図ります。そして、「つくる」活動と、「魅せる」「集う」活動がつながり、相互に連携し、さらなる創造的な活動や事業の展開を図ることにより、岡山独自の文化芸術を創り出し、国内外へ発信していく創造型の劇場を目指します。

【事業展開イメージ図】



3 管理運営の考え方 (P. 10~15)

【管理運営の基本方針】

- 専門性の確保
- 柔軟な管理運営
- 非営利の経営視点を持った管理運営
- 評価の仕組みの構築

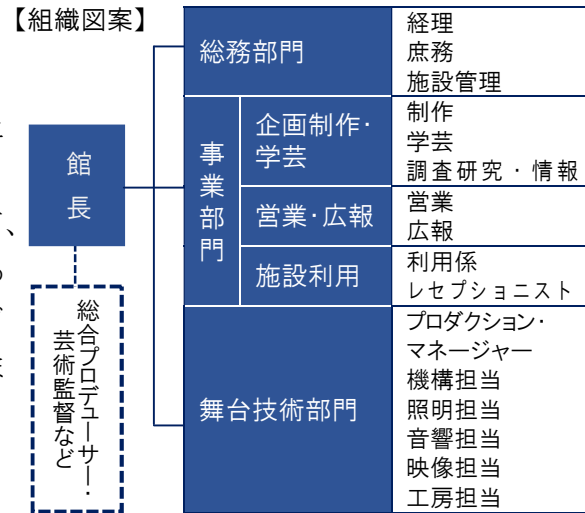
【組織体制の基本方針】

- 岡山市の文化振興施策を具体的に実現する劇場として相応しい運営体制
- 施設が備える機能を十分に発揮できる運営体制
- 柔軟な対応ができる運営体制

管理運営は、整備された施設や設備などが常に安全に運用されることを基本とし、目指していく事業や活動の成果を最大限に引き出していくための管理運営や運営組織を検討します。

事業の実施に必要と想定される職能について、「組織図案」を示します。事業や活動を統括する能力として、総合プロデューサーや芸術監督などの配置についても、必要に応じて検討していきます。運営方式は「直営」・「指定管理者」のメリット・デメリットを精査し、今後、検討をすすめます。

【組織図案】



4 諸室計画 (P. 16~28)

大ホールエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・バレエ・ダンス、オペラ、ミュージカル・音楽劇、大型演劇など大掛かりな舞台芸術の鑑賞事業を行うことができる高い専門性を備えた多機能ホールとして計画する。ポピュラーコンサートやロック、ジャズ・吹奏楽、邦楽・民族音楽などの音楽芸術の公演にも対応する。 ・プロセニウム形式の舞台(開口幅:18m、奥行:18m程度)とし、様々な舞台芸術の上演が可能な機能や、台詞など肉声の響きに配慮した残響時間や響きを備える。 ・1,700席程度(1階客席900席程度の3層構造)の客席を備える。 ・十分な遮音性能と静音性能を確保する。 ・大ホールホワイエへの入口は、観客を迎えるに相応しい設えとする。また、開場前の観客や高齢者、障がい者、子どもなどの利用に配慮した動線上の工夫を図る。 ・11t車両の利用を想定した大ホール専用の搬入口と複数台留置き可能な駐車スペースを設置する。
中ホールエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇やダンス・舞踊、伝統芸能など舞台芸術の創造活動を行い、その成果を広く発信していく高い専門性と機能を備えるホールとして計画する。創造活動に対応できる今日的機能を備えた舞台設備を設置したプロセニウム形式の舞台(開口幅:14.5m、奥行:14.5m程度)とし、台詞など肉声の響きに配慮した残響時間や響きを備える。 ・可動式音響反射板の使用時には、クラシック音楽など生音の響きを大切にする音楽芸術に対応できる音場となるよう計画し、市民文化ホールがこれまで担ってきた比較的小規模な音楽利用にも対応できるものとする。 ・800席程度(1階客席600席程度の2層構造)の客席を備える。 ・十分な遮音性能と静音性能を確保する。 ・大ホール同様、観客を迎えるに相応しい設えや動線上の工夫を図る。 ・11t車両の利用を想定した中ホール専用の搬入口を設置する。
創造支援エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・大スタジオ ・大中小練習室 ・創造スタッフ室 ・工房及び倉庫 <ul style="list-style-type: none"> ・創造活動や日常的な市民の練習活動を支えるためのスペース。相互の室の活動を制約しない計画とする。 ・大スタジオは大ホール、大練習室は中ホールでの公演の稽古を想定し、主舞台面積のほか必要なスペースを加えた面積を確保する。 ・大スタジオと大練習室は、公演利用を想定した機能を備える。
交流促進エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンロビー ・インフォメーション ・情報コーナー ・カフェ・レストラン <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも気軽に立ち寄り、憩える多目的なオープンスペース。 ・人々の交流の機会や賑わいを創出する空間。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・管理事務室 ・その他(救護室等) <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理に必要な事務室及び関係諸室、その他(救護室等)を設置する。

5 施設計画 (P. 29~41)

来館者動線	<ul style="list-style-type: none"> ・主に、周辺の街路から来館する観客や施設利用者などを想定。 ・誰もがアクセスしやすくする。
出演者・関係者動線	<ul style="list-style-type: none"> ・主に、大ホール・中ホールで上演される演目への出演者や関係者の動きを想定。 ・観客やホール以外の施設利用者の動線と交わらないものとする。
大道具等搬入動線	<ul style="list-style-type: none"> ・公演や催物で使用する道具や機材などの動きを想定。 ・簡便かつ安全な運搬を可能とする。

大ホールエリア	約 6,000 m ²
中ホールエリア	約 3,000 m ²
創造支援エリア	約 3,700 m ²
交流促進エリア	約 800 m ²
管理エリア・その他	約 6,500 m ²
合計	約 20,000 m ²

新しい文化芸術施設の動線には、大別して上記の3つの動線が必要です。これらの動線は、劇場施設の特異性に鑑み、基本的に分離して計画します。

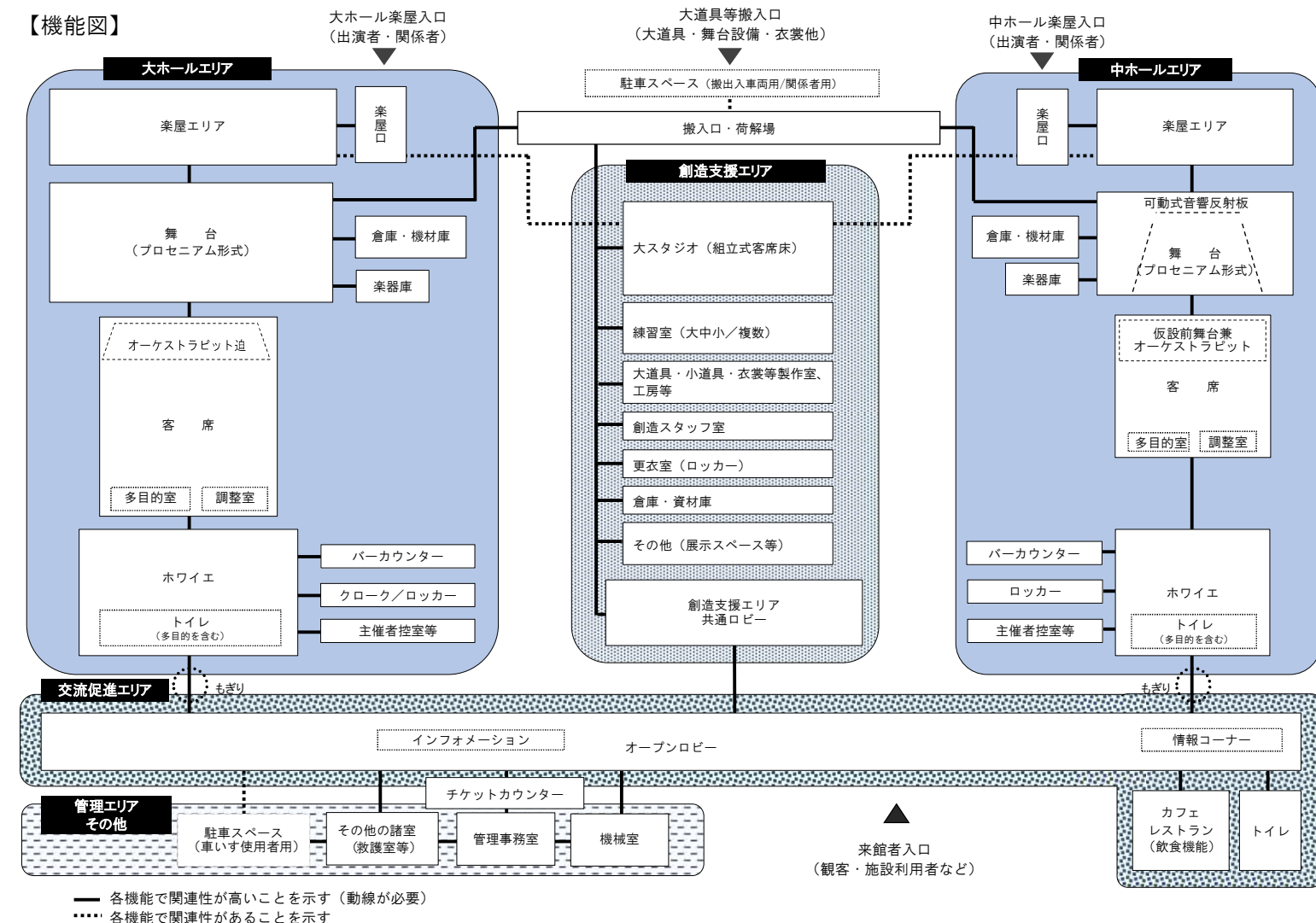
また、本施設は市街地再開発事業により整備される複合施設であり、本施設以外の施設部分や共用部分の建物設備諸室等への動線についても、別途その必要性に応じた検討を行います。

市街地再開発事業として、本施設に加えて、「商業」、「事務所」、「住宅」などの施設を複合化することが提案されています。これらの異なる施設を整備予定地に効果的に配置するために、【施設配置の考え方】に考慮して、本施設の配置を検討します。

【施設配置の考え方】

- 周辺街区への賑わい誘導
- 象徴としての外観
- 高さへの配慮

【機能図】



新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画

～集い、魅せる、つくる 躍動するまちを目指して～

平成 28 年 6 月

岡 山 市

はじめに

岡山市は、1996年に中核市となり、2007年には推計人口が70万人を突破し、2009年に全国で18番目、中四国では2番目の政令指定都市となりました。近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置し、広域・高速道路網、山陽新幹線に加え在来線7路線が東西南北に広がる鉄道網、東京はもとより、アジアの諸都市につながる航空網等、全国的にも非常に優れた交通の広域拠点性を有しています。

文化の面では、1963年から開催している「岡山市芸術祭」など市民や文化団体による多様な文化活動が行われており、岡山市民会館、岡山市立市民文化ホール、岡山シンフォニーホールなどの劇場や音楽ホール、岡山市立オリエント美術館や岡山シティミュージアムなどの美術館、博物館施設、また、図書館や公民館など様々な文化施設も整備されてきました。特に、岡山市民会館と岡山市立市民文化ホールについては、竣工からの築年数も長く、施設の老朽化に加えて、舞台芸術や音楽芸術の上演を支える機能の不足が懸念されるようになってきており、新しい文化芸術施設の整備が必要となっています。

また、近年、「文化芸術振興基本法」や「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」などの制定をきっかけに、劇場や音楽ホールは、優れた施設機能と専門的な知見・技術を備えた人材によって生み出される舞台芸術や音楽芸術により、地域の活性化や賑わいを創出していくことが期待されるようになってきました。

さらに、昨年度策定した岡山市第六次総合計画長期構想では、新たな都市の魅力を創造発信し、活力と躍動感あふれる都市づくりを進め、これにより岡山市の都市ブランドを確立し、市民がその魅力を自信を持って国内外に発信できる都市、市民誰もが岡山に住み続けることに誇りを持てる都市づくりに向けて取り組むこととしています。

こうした状況を踏まえ、岡山市では、人々の交流と賑わいの場であり、誰もが気軽に訪れ、文化芸術活動の拠点となる新しい文化芸術施設を整備し、施設での「魅せる」「集う」「つくる」といった活動を通じて、地域の魅力を高め、心豊かな市民生活と活力ある地域社会を実現し、未来へ躍動するまちの実現を目指してまいります。

本基本計画では、新しい文化芸術施設の整備に向けて、施設がこうした役割を果たすために必要となる機能や規模などについて整理しました。

新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画 目次

1	新しい文化芸術施設の整備方針と役割	
(1)	整備に向けた流れと方針	1
(2)	果たすべき役割	4
2	事業の考え方	
(1)	事業展開の基本方針	7
(2)	事業内容	8
3	管理運営の考え方	
(1)	管理運営の基本方針	10
(2)	組織体制の基本方針	11
4	諸室計画	
(1)	施設機能の具体化	16
(2)	主たる機能諸室の検討・整理	17
5	施設計画	
(1)	動線の考え方	29
(2)	施設配置の考え方	30
(3)	管理区分計画の考え方	34
(4)	設備計画の考え方	35
(5)	その他の検討	39
6	施設整備事業費などの考え方	
(1)	建設費及び概算整備費	42
(2)	運営費等の考え方	43
7	整備スケジュール	
(1)	整備計画地	45
(2)	整備スケジュールの整理	45
(3)	開館までの業務	46
(4)	今後の検討課題の整理	47
	用語説明	49

※本文中下線____の用語について説明しています

●参考資料

1 新しい文化芸術施設の整備方針と役割

(1) 整備に向けた流れと方針

岡山市内には、複数の劇場・音楽堂等があり、市民の文化芸術の鑑賞や活動などの場として幅広く利用されております。中でも、昭和38年に開館した岡山市民会館と昭和51年に開館した岡山市立市民文化ホールは、岡山市民の音楽芸術や舞台芸術等の鑑賞や発表の場、また、生涯学習の場や式典会場などとして広く活用されております。

しかしながら、築後年数が長くなるにつれて、両施設とも建物や設備の老朽化が進み、経年的な劣化とともに、性能や機能面の劣化も顕著となっており、施設の安定的運用だけでなく、安全性の点でも懸念されるようになっております。

このようなことから、岡山市は両施設の機能を統合した新しい文化芸術施設（以下「本施設」という。）の建設に向けた検討を進めることといたしました。

本施設の整備に向けては、まず、市民がどのような施設を望んでいるのか、ということから検討することとし、平成25年度に「市民会館・市民文化ホールあり方検討会」を設置して、有識者のご意見を伺いながら、「魅せる」「集う」「つくる」というキーワードによる施設のコンセプトとイメージをまとめました。

さらに平成27年度には、本施設の整備予定地を「千日前地区市街地再開発事業予定地」に決定したことを踏まえ、「新しい文化芸術施設の整備に関する基本構想」を策定しました。

今回の「基本計画」は、こうしたこれまでの検討経緯を踏まえ、さらに「新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画検討懇談会」でいただいた有識者のご意見や、パブリックコメントなどによる皆様からの様々なご意見を参考にして、「千日前地区市街地再開発事業地」を整備地として、本施設の整備方針を具体的に整理したものです。

今後も広くご意見をお伺いしながら本施設の整備を進めてまいります。

【これまでの流れ】

年度	主な検討内容	
25	市民会館・市民文化ホールあり方 検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に必要な機能 ・整備・運営手法 ・採算性
26～27	新しい文化芸術施設の整備に関する 基本構想(策定)	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市の文化環境の現状分析等 ・基本コンセプト ・事業の考え方 ・管理運営の考え方 ・施設整備の考え方
27	新しい文化芸術施設の整備に関する 基本計画(素案)	<ul style="list-style-type: none"> ・整備方針 ・事業方針 ・管理運営方針 ・施設計画

【今後の流れ】

年度	管理運営関係(岡山市)	施設計画関係 (市街地再開発事業)
28	新しい文化芸術施設の整備に関する 基本計画(策定)	基本設計 都市計画手続等
29	管理運営基本計画	実施設計
30	管理運営実施計画	
31	開館準備業務	建設工事
32		
33		
34	開 館	

施設の整備に向けてのコンセプトと施設のイメージ

- ◆あり方検討会での有識者からの意見を参考に作成
- ◆新しい施設のコンセプトとキーワード 「魅せる」「集う」「つくる」
- ◆望まれる施設イメージ「多目的な利用に適した大ホール」「演劇の上演に適した中ホール」「多目的のオープンスペース」「スタジオ」



新しい文化芸術施設の整備に関する基本構想

- ◆「施設のコンセプトとイメージ」を基に、「施設の整備予定地」の決定を踏まえて策定
- ◆施設の機能・規模・整備手法、また実施する事業や管理運営などの考え方について、概念的に取りまとめ
- ◆諸室の機能イメージ
 - ▽広く鑑賞活動を支える多目的に利用できる大ホール
 - ▽舞台設備を充実させ、主に舞台芸術に利用できる中ホール
 - ▽創造支援機能を備えたスタジオ
 - ▽多くの市民が気軽に立ち寄れる多目的のオープンスペース



新しい文化芸術施設の整備方針

★新しい文化芸術施設で実施する事業（ソフト）

- ・現在、岡山市で行われている事業や活動を支援するとともに、自ら創造していくための礎を築いていく
- ・岡山市域に新たな賑わいを創出することができる事業や活動を再開発地域と一体となっていく
- ・岡山市が誇れる新たな価値を創造することができる事業や活動を展開していく

★新しい文化芸術施設の整備（ハード）

- ・これまでの市民活動を支えるとともに、岡山市が誇れる舞台芸術、音楽芸術を育み、創り出し、発信させていくための機能を備えた施設整備を目指す
- ・いつでも誰でも気軽に立ち寄り、憩うことができる機能を備えた施設整備を目指す
 - ▽実演芸術の公演に適した近代的な設備・機能を備える多機能な大ホール
 - ▽実演芸術の上演に適した充実した機能を有し、市民にも使いやすく、魅力的で、創作活動を支援し、発信する中ホール
 - ▽表現する者・観る者・支援する者など多様な人材の育成や市民の創作活動や発表の場となる大小のスタジオ、練習室
 - ▽世代や分野を越えた交流、さまざまな文化芸術活動の表現を支えるオープンスペース（情報コーナー、カフェ等）

(2) 果たすべき役割

本施設は、これまで岡山市民会館及び岡山市立市民文化ホールが担ってきた役割や音楽を中心としたホールである岡山シンフォニーホールとの役割分担を踏まえ、これからの文化芸術施設に相応しい使命と機能を兼ね備えた施設として、地域的な視点のみならず広域的な視点も含めて、果たすべき役割を考えていく必要があります。さらに、市街地再開発事業により生み出される土地の高度利用を生かし、地域の活性化や賑わいの創出などを図るとともに、文化芸術の専門施設としての役割を強化し、公共施設としての役割も果たしていくことが望まれます。

ア 広域的な視点

(ア)「文化芸術振興基本法」や「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨に則した文化芸術施設を目指す。

(イ) 近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置する岡山市の地理的優位性を活かし、人材、情報などが集まり、交流し、発信できる拠点施設を目指す。

(ウ) 海外を含め、全国的な規模で展開する優れた文化芸術活動や公演などを受け入れることのできる機能や規模を持った施設として整備し、これまで岡山はもとより中四国エリアでは行われてこなかった文化芸術活動や公演などを提供することにより、岡山市の文化的アイデンティティやステイタスを高める。

(エ) 大阪、広島、香川など近県で上演され、鑑賞されてきた文化芸術作品が、岡山上で上演されないことがあることに鑑み、本施設の整備を契機として優れた文化芸術公演が鑑賞できる機会を作り出していく。

イ 地域的な視点

(ア) 岡山市内の文化芸術施設と連携した文化事業や活動に加え、専門分野の人材育成など地域の文化芸術の拠点施設としての役割を担う。

(イ) 教育、医療、福祉、経済、国際交流など幅広い分野と連携した事業や活動の展開により、文化芸術を軸とした相乗効果を生み出し、まちづくりにつなげていく。

(ウ) 岡山市民が培い、育ててきた本市の文化芸術の価値を高めることにより、本市への流入人口や定住人口の増大を図るとともに、新たな地域コミュニティの創出など、社会包摂的な機能を担っていく。

(エ) 倉敷市など周辺市町村内の文化芸術施設と連携することにより、県内地域全体の文化芸術の価値を高めていく。

- (オ) 岡山駅、岡山市役所、歴史文化ゾーンに続く起点として、本施設を都市のランドマークとして位置付け、立地を活かして都心 1km スクエア内の回遊性向上を図り、都市の活性化を促進していく。
- (カ) 事業エリア内の施設全体および周辺商店街との連携により、その賑わいを周囲へ波及させていく。
- (キ) 本施設は、より多くの人々に文化や芸術に関心を持っていただき、音楽や舞台・伝統芸能が有する固有の価値を享受することや、文化芸術を通じた市民間の新たなつながりの構築など、社会包摂的な機能も担っていく。

ウ 文化芸術専門的施設としての視点

- (ア) 周辺の文化芸術施設との役割分担を十分に考慮し、これまで岡山市民が培ってきた文化芸術活動を継続し、さらに発展させ、育むための機能を備えた施設とする。
- (イ) 舞台芸術や音楽芸術などの専門的施設として専門分野の人材を配置して、文化芸術の事業や活動を展開していくことに加え、施設の管理・運営体制などを強化することにより、文化芸術の拠点施設としての基盤を築いていく。
- (ウ) 本施設が核となり、文化芸術に関する情報の収集と提供を行うとともに、専門的な知見や技術を市民の文化活動や周辺の文化芸術施設に波及、或いは派生させていく。
- (エ) 文化芸術が有する固有の価値や魅力を子育てや教育に活かしていくことで、心豊かな市民生活及び活力ある地域社会の実現や発展を進めていく。
- (オ) 本施設は、これまでの貸館による施設の提供だけではなく、舞台芸術や音楽芸術などの施設機能を活かし、総合的に文化芸術振興を実践していく。

エ 公共的施設としての視点

- (ア) 舞台芸術や音楽芸術などに関する文化芸術施設としての機能を高めていく一方で、会議や大会、講習会などの利用もできる施設となるよう配慮する。
- (イ) 誰もが、気軽にいつでも立ち寄ることができ、誰かと待ち合わせることや市民一人一人が自由な時間を過ごすことができる「文化の広場」として、開かれた施設機能を備える。

(ウ) 災害発生時の一時避難場所となることも配慮し、検討していく。

2 事業の考え方

(1) 事業展開の基本方針

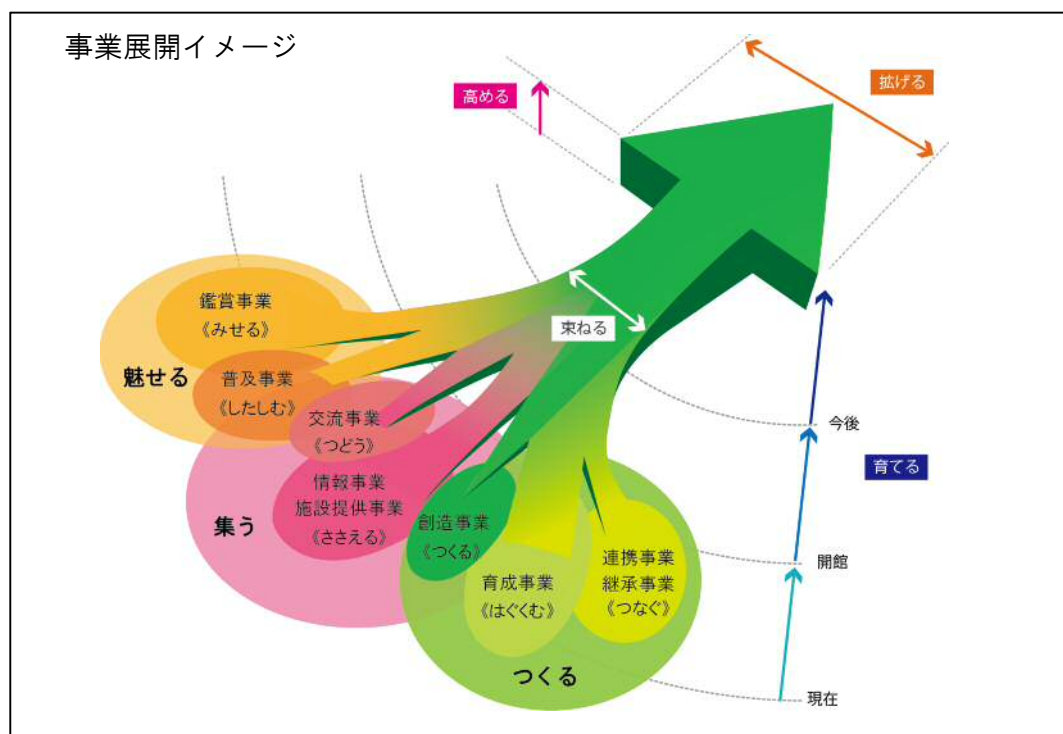
本施設においては、基本構想に示したように、「魅せる」「集う」「つくる」という活動を中心として事業を展開してまいります。

【新しい文化芸術施設で行う事業】

魅せる	鑑賞事業《みせる》 普及事業《したしむ》
集う	交流事業《つどう》 情報事業、施設提供事業《ささえる》
つくる	創造事業《つくる》 育成事業《はぐくむ》 連携事業、継承事業《つなぐ》

これまで岡山市内で実施されてきた「魅せる」「集う」といった活動をより一層強化するとともに、芸術文化団体や市民が行ってきた様々な創作活動を支援し、新たな文化芸術の創造につなげていくために、「つくる」活動を実践していきます。

さらに、これらの活動に多くの人々が参加し、また市民と協働することで、様々な事業の充実を図ります。そして、「つくる」活動と、「魅せる」「集う」活動がつながり、相互に連携し、さらなる創造的な活動や事業の展開を図ることにより、岡山独自の文化芸術を創り出し、国内外へ発信していく創造型の劇場を目指します。



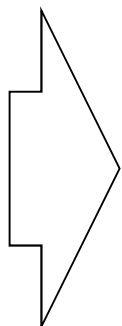
(2) 事業内容

基本構想で掲げた「活動及び事業内容」について、今後目指す事業を以下のとおり例示します。事業展開イメージ図のとおり、これまでの市内で展開されてきた様々な事業を基盤に事業をさらに広げていきます。

主 な 事 業 (例)	
鑑賞事業 《みせる》	<ul style="list-style-type: none"> ○国内外のバレエ、オペラ、ミュージカル、演劇、ダンス、 伝統芸能などの公演 ○公演にあわせ理解を深めるための鑑賞講座 ○共催、提携、後援事業 など
普及事業 《したしむ》	<ul style="list-style-type: none"> ○体験型ワークショップ ○アウトリーチ活動 ○バックステージツアー など
交流事業 《つどう》	<ul style="list-style-type: none"> ○文化芸術活動団体・個人、商店街、市内の文化施設等と 協働し賑わいの創出につなげるフェスティバル ○交流促進事業 など
情報事業、 施設提供事業 《ささえる》	<ul style="list-style-type: none"> ○機関誌の定期的発行 ○情報センターやインフォメーションセンターの運営 ○諸室提供 など
創造事業 《つくる》	<ul style="list-style-type: none"> ○作品創造に向けたワークショップ、試演会 ○市民参加作品の創造 ○岡山独自の施設プロデュース作品の創造 など
育成事業 《はぐくむ》	<ul style="list-style-type: none"> ○養成講座 ○青少年対象のジュニア教室 ○活動団体への支援 など
連携事業、 継承事業 《つなぐ》	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで培われてきた市民の文化活動支援 ○地域の文化継承支援 ○岡山県内の大学や教育機関等との連携 ○文化施設連携 など

考え方や補足説明

- 多彩な分野の大型の舞台芸術作品の鑑賞機会を提供し、多くの市民が鑑賞に訪れる機会を創出する。
 - 広域集客を高めるために、近隣地域にはない先駆的・先進的芸術作品の公演を行う。
 - 子ども向けの公演など対象を定めた鑑賞事業を実施する。
 - 新聞社、放送局などマスメディアや民間の興行会社などと共同し、鑑賞機会の提供の充実を図る。
 - 実演家や活動団体とも協働した鑑賞事業も展開する。
-
- 文化芸術に関心を持つ人を増やすための入門型のワークショップを行い、文化芸術に関心を持つ層のすそ野を広げていく。
 - 施設への理解を深めるため、施設内のバックヤードの見学会を実施するなど、広く関心を喚起していく。
 - 教育機関や福祉施設などでのアウトリーチ活動を展開し、本施設に訪れにくい人・層に文化芸術を届ける事業を積極的に展開する。
-
- さまざまな分野の公演や文化芸術活動団体・個人による発表会や国際的な舞台芸術・音楽芸術などを視野に入れたフェスティバルなどを複合的に開催し、より多くの市民が気軽に訪れることができるように工夫する。商店街等とも連携し、賑わいの創出につなげる。また、市内文化施設とも連携して実施することも検討する。
 - 気軽に参加できる世代間交流等を目的としたワークショップなどを開催し、交流を促進する。
 - 周辺既存施設と連携した交流・創造・滞在型の作品制作事業に取り組む。
-
- 公演の周知や文化芸術活動参加者を増やすことを目的に機関誌を定期的に発行し広報を行う。文化芸術に関心のある人以外にも興味を持ってもらえるような広報を行っていく。
 - 近隣地域や全国、海外をも含めた文化芸術に関する情報の収集と提供を行い蓄積しアーカイブ化を図る。また、文化芸術に限らない岡山市に関する情報を収集し、提供する。WEB ページの運営も行う。
 - 大・中ホール、創造支援諸室の貸出しを行う。
-
- 作品創造に向けた実演家対象の連続ワークショップを重ね、発表を兼ねた試演会などを段階的に開催し作品創造へつなげる。
 - 市民参加によるオペラやミュージカル等岡山市独自の作品創造を継続的に行う。
 - 本施設が主体的に企画・制作するコンサートや演劇・ダンス作品を創造し公演を行うとともに、再演を視野に入れた上演を行う。
-
- 演出家や舞台関係者による舞台芸術に関するワークショップ、技能取得などを目的とした連続ワークショップなど、実演家、文化芸術を支える人材の養成を行う。
 - 人的資源の発掘・集積の観点から学芸・学際的な研究者やアートマネージャーの養成を行う。
 - 青少年を対象とした演劇、ダンスなど文化芸術活動の日常的な練習と発表の機会を設ける。
 - 文化芸術活動を行う個人・団体へ、職員の専門性を活かした指導、助言等を行う。
-
- 現在市内で行われている様々な文化活動の支援を行い、活動同士をつなげる。
 - 市内に残る伝統芸能を継承する人材の育成や、発表会開催への支援などを行う。
 - 市内にある大学と連携し、学生のインターンシップの受け入れや共同研究などを行う。
 - 市内文化施設と連携しフェスティバルの開催や、親しみやすさを醸成するスタンプラリーなどを開催する。またスタッフ同士のネットワーク形成なども図る。



3 管理運営の考え方

(1) 管理運営の基本方針

本施設では、コンセプトである「魅せる」「集う」「つくる」を実現していくために事業や活動の成果を最大限に引き出していけるような運営が望まれ、また、整備された施設や設備などが安全に運用され、安定的に使用できるように維持管理していくことが求められます。

そのために、次のような視点を踏まえた管理運営を行うものとします。

ア 専門性の確保

岡山市の文化芸術の中核を担う専門的施設として、果たすべき役割を踏まえて、舞台芸術や音楽芸術などの活動や事業を企画運営する能力が求められます。

また、舞台や客席といった大空間を備え、不特定多数の来館者を一時的に収容する施設であることに加えて、舞台設備という特殊な演出装置を備えることから専門施設や設備の運用に関する知識と経験、高い技術的能力が求められます。

さらに、組織や事業を管理運営する能力、舞台芸術や音楽芸術などを創造する能力などに加えて、本施設が市街地再開発事業で整備される複合施設であることから、共用の施設や設備の管理運営についても、十分な知見と技術に関する能力を備えた人材の配置が必要であり、これらの専門的な能力を備えた人材を継続的に配置し、ノウハウを継承することが求められます。

イ 柔軟な管理運営

専門性の高い施設や設備を、安全で安定的に管理運営していくことに加え、舞台芸術や音楽芸術の練習や創造活動などの利用に応じて、その成果を最大限に引き出せるよう運用にも配慮していきます。

また、複合施設として文化芸術施設以外の施設部分の運用について情報交換や相互理解、そして管理運営組合との調整にも配慮していきます。

ウ 非営利の経営視点を持った管理運営

安全性、安定性を確保しながら施設の利用状況や事業の実施状況を踏まえ、施設利用料金や助成金、補助金などを含めた収入と施設を適切に維持管理し、事業や活動を行っていくために必要な支出について経営的なバランスを保った適切な管理運営を行うことが必要です。

岡山市の文化芸術の振興を促進させるための施設であることから、効率性だけを重視するのではなく、文化を振興していくために必要な投資を効果的に実施していくことが求められます。

エ 評価の仕組みの構築

管理運営のシステムを評価する仕組みとして、定期的な管理運営状況の情報を蓄積するとともに、来館者や管理運営者相互の利便性を加味した管理運営システム計画とそれに対する評価を行い、その評価に基づき見直しを図っていきます。

また、事業や施設運営の成果を検証し、その検証結果を広く市民に公開する透明性の高い仕組みを整えておくことが必要であり、市民の理解を広げることが求められます。

(2) 組織体制の基本方針

ア 運営組織のあり方

本施設が岡山市の文化芸術の拠点施設として機能するため、運営組織については、次のことに留意します。

(ア) 岡山市の文化振興施策を具体的に実現する劇場として相応しい運営体制

本施設は、その目指す基本方針に沿って、効率的・効果的に事業や運営を行うことに加え、継続性・成長性を持ち、中長期的な事業展開を視野に入れた運営が求められます。

また、市の文化振興の拠点として他の類似施設との一体的な運用や事業連携などを視野に全体的な取り組みを実現できる体制が必要です。

(イ) 施設が備える機能を十分に発揮できる運営体制

創造性及び企画性が文化芸術施設の事業の質に直結するという、施設の特性を踏まえた組織形成及び人材の配置が重要です。具体的には、文化芸術に対する専門的能力、高度な舞台関連設備を運用する技量、それらを束ねて専門施設を運営する能力の確保と配置が求められ、これらの専門的な能力を備えた人材を継続的に配置し、ノウハウを継承できる体制が必要です。

また、専門性の高い施設の運営に対する的確な評価の手法と、その結果を速やかに取り入れ改善を図ることができる仕組みの検討を行います。

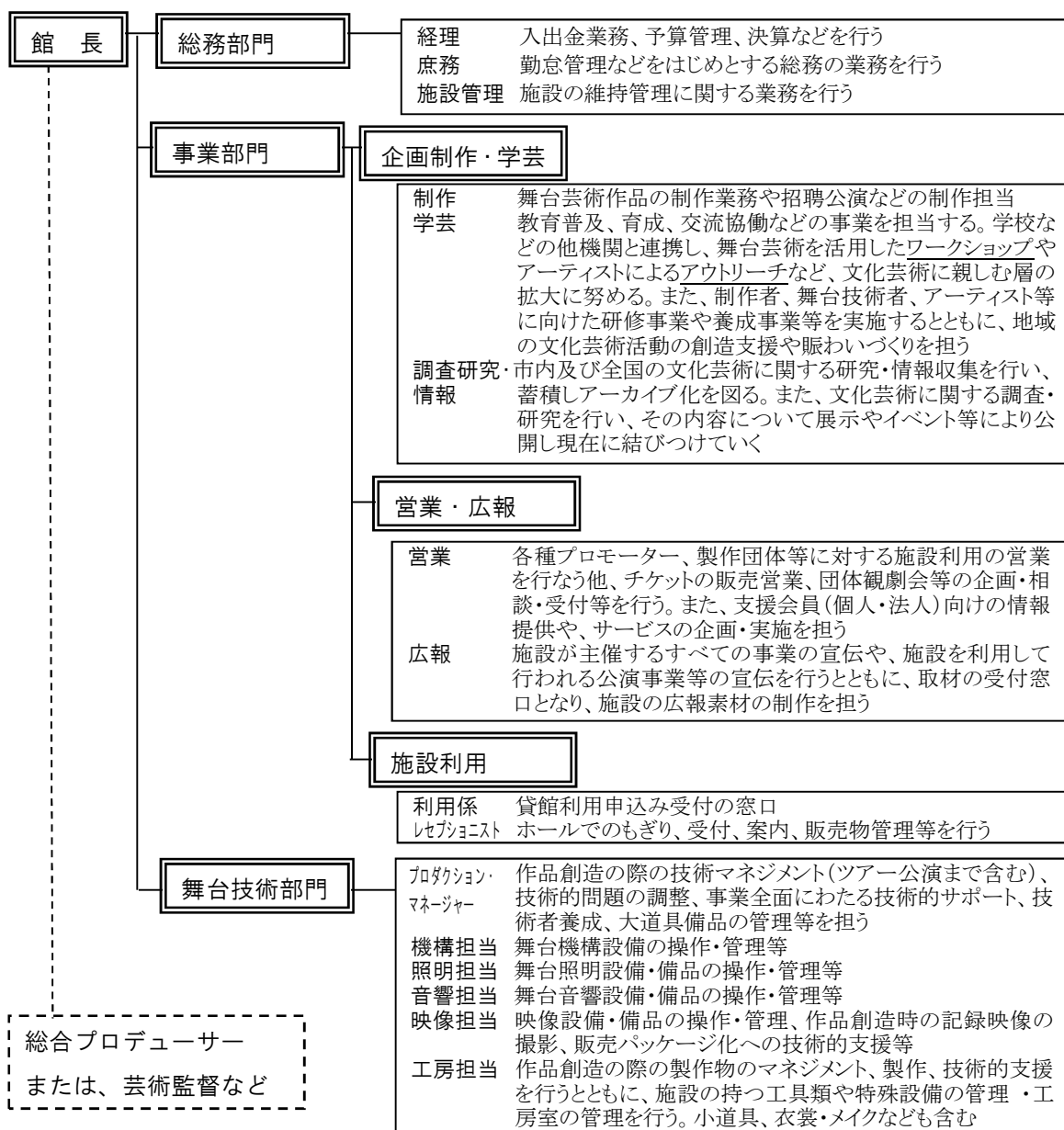
(ウ) 柔軟な対応ができる運営体制

今後の文化芸術施設には、多様化する住民ニーズ等への対応ができる運営がこれまで以上に求められることが想定されます。それらのニーズに柔軟に対応できる体制と、加えて、来館者に対して常に質の高いサービスやおもてなしを提供していくための研修や技能向上が行える体制の確立が必要です。

イ 組織体制

本施設を管理運営し、事業を実施していくために必要と想定される職能について、組織図案として示します。事業や活動を統括する能力として、総合プロデューサーや芸術監督などの配置についても、必要に応じて検討していきます。

【組織図案】



*施設運営や事業展開においては、様々な段階で市民組織や団体などとの協働を検討していきます。

ウ 運営母体の考え方

運営方式について、「直営」方式、「指定管理者」方式のメリット・デメリットを精査し、導入にあたっての留意点を以下のとおり整理しました。今後、「管理運営基本計画」「管理運営実施計画」を策定する中で、さらに検討をすすめます。

【管理運営母体の比較と新しい文化芸術施設における導入にあたっての留意点】

直営	<p>【概要】 設置自治体である市が直接運営する。ただし、その場合でも専門的な職能が必要な業務については、一部民間事業者等外部に委託する事例が多くみられる。</p> <p>【メリット・デメリット】 ◎本施設の設置者である市が運営することで、施設の設置目的の達成に向けた運営となる。 ×文化芸術に対する専門性や高度な舞台関連設備等を扱う技量を確保することや質の高いサービスやおもてなしを継続的に提供することが難しい。</p> <p>【留意点】 新設施設の開館前には維持管理経費を高い精度で想定することは極めて難しい。そのため、開館直後の短期間のみ「直営方式」とし、必要な経費の見込みや経費縮減の可能性検討などを行い、次期の「指定管理者制度導入のための業務基準を設計する期間」とするなど対応が必要。</p>
指定管理者	<p>【概要】 「公の施設」の管理運営において、多様化する住民ニーズに効果的に応えるため、民間のノウハウを活用し、サービスの向上と経費の節減等を図ることを目的とした指定管理者制度において、一定の条件を満たす組織から広く募る方法。一般的には、提案を受け、その提案を評価して選定する。</p> <p>【メリット・デメリット】 ◎選定方法として透明性の高い選定が可能である。 ◎経費の縮減が期待できる。 ×有期の制度のため、指定管理者が変わる可能性が高い。この場合、文化芸術に対する専門性や高度な舞台関連設備等を扱う技量を確保することや質の高いサービスやおもてなしを継続的に提供することが難しい。</p> <p>【留意点】 民間事業者が創造事業を中心に行っている公の施設の指定管理者となっている事例は全国においても少ない。公募する際には事業者の発掘が必要である。</p>
特定 の 事 業 者 を 選 定 す る 場 合	<p>【概要】 指定管理者制度を導入する場合に、公共的団体で専門性や実績を備えている組織を特定して選定する方法。公募の場合と同様に提案を受け、指定管理者として管理運営を行う能力があるかを評価したうえで、選定する。</p> <p>【メリット・デメリット】 ◎文化施設の管理運営の専門性と実績を持つ団体を選定することで、施設の設置目的の達成に向かい行政との意志の疎通を図りながら、ノウハウを活用した運営や活動実施を行っていくことが期待できる。 ◎劇場・音楽堂等の管理運営経験がある場合は、専門的人材の養成と配置が期待できる。 ×本施設の管理運営や事業の実施に必要な経験や人材のすべてが確保されているわけではない。</p> <p>【留意点】 本施設にかかる管理運営や事業実施において、十分なノウハウが蓄積されていない部分は、外部から新たに調達することも考えられる。</p>

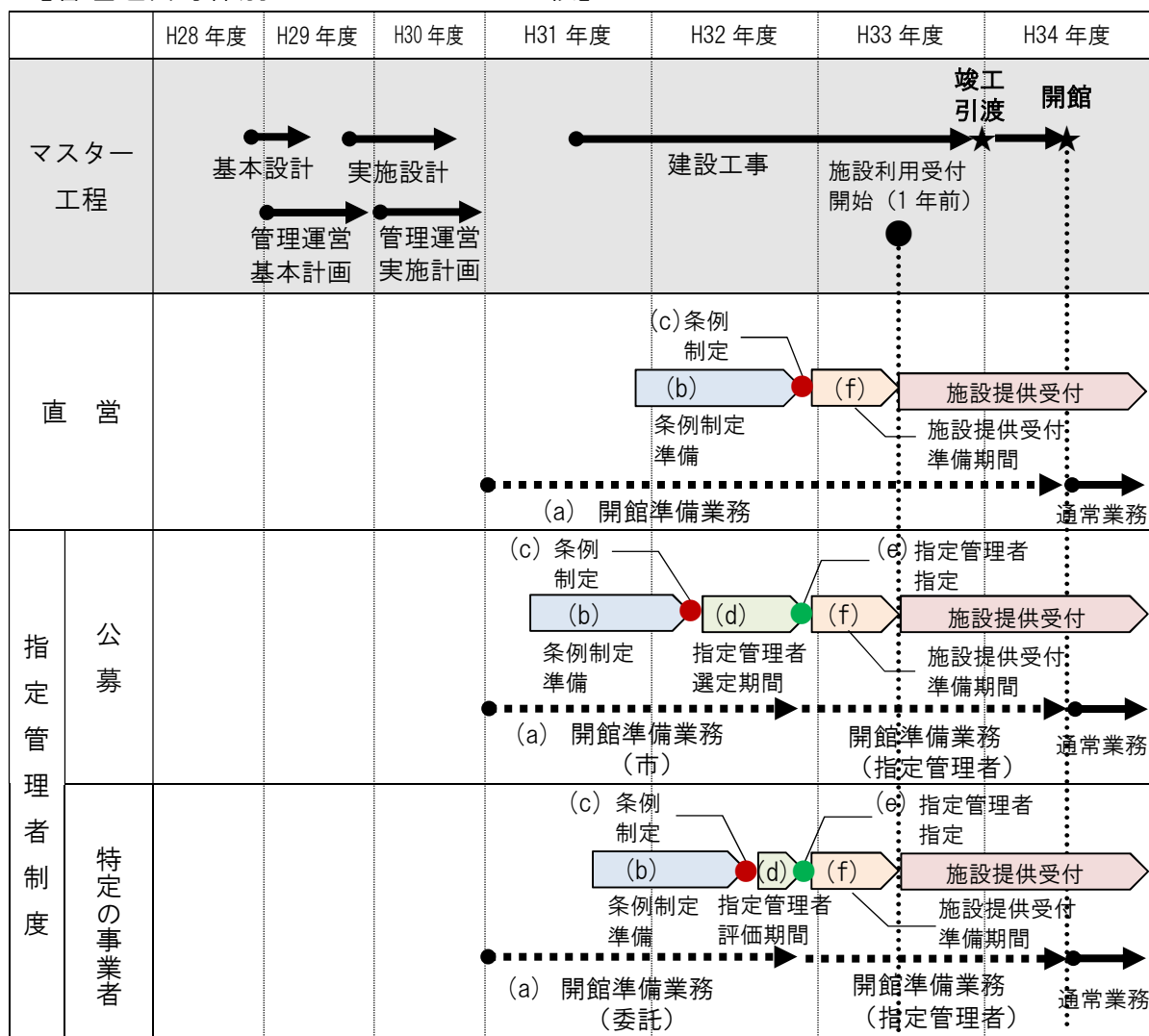
次に開館に向けたスケジュールの整理を行います。

指定管理者制度を導入する場合、施設設置条例制定後に指定管理者の選定、指定を行わなければならないため、施設設置条例の制定時期が運営母体の選定によって異なります。

現在の岡山市民会館と同様に、施設の利用申し込み（施設提供）の受付を1年前から始めるとすると、開館の1年前までには少なくとも施設設置条例の制定が必要となります。また、指定管理者制度を導入する場合には、さらに1年近く遡って施設設置条例を設置し、指定管理者の選定手続きを行う必要があります。

その結果を下図で比較すると、指定管理者の「公募」を行う場合が、最も早い時期から条例制定の手続きに入る必要があります。

【管理運営母体別のスケジュールの比較】



(a) 開館準備業務

本施設開館のための準備業務を行う。必要に応じて専門的な業務（例えば、発券や管理運営システム構築業務、備品調達業務など）については、外部事業者に業務を委託することがある。

指定管理者制度を導入する場合は、指定管理者が決定次第、その指定管理者と共同で開館準備業務を行う。

(b) 条例制定準備（条例＝施設設置条例）

本施設の管理運営者を決定するためには、その根拠となる施設設置条例の議決が必要である。指定管理者を選定する場合には、施設設置条例の制定が議会決議をされた後に選定業務を開始する。

(c) 条例制定（議会議決）

施設設置条例では、利用時間、利用申込方法や期日、休館日設定、連続使用の制限、利用料金の設定、管理業務などを定める。指定管理者制度を導入する場合には、条例制定以降に指定管理者選定の手続きが可能となる。

(d) 指定管理者選定（評価）期間

指定管理者を公募で選定する場合には、この指定管理者選定期間で、最優秀交渉権者の選定を行う。また、そのために必要な期間は、6か月程度を見込む必要がある。特定の事業者を評価し、指定管理者に認定する場合は評価期間となり、公募に比べて大幅に短くなる。

(e) 指定管理者の指定（議会議決）

施設設置条例に示された指定管理者を特定する手続き。

(f) 施設提供受付準備期間

直営の場合は、施設設置条例の制定後、また指定管理者制度を導入する場合には、指定管理者の指定後から、施設提供受付の開始までの期間。施設提供受付や利用料金精算、経理や会計のためのシステムなどの運用を習得することや管理運営マニュアルの策定などを行う。

4 諸室計画

(1) 施設機能の具体化

「2 事業の考え方」で掲げた方針を具体化するために必要となる施設機能を、担う役割ごとに次の5つのエリアにゾーニングし、整理します。

これらの諸室は、相互の活動を制約しない十分な遮音対策や振動対策を行い、それぞれのエリアが他のエリアに影響を及ぼさない対策を行うものとします。

主 な 諸 室		概 要
大ホールエリア		<ul style="list-style-type: none"> ○広く芸術文化活動の鑑賞や発表を支え、多機能に利用できるホール ○会議や大会、講習会などの集会利用にも対応
中ホールエリア		<ul style="list-style-type: none"> ○舞台設備を充実させ、主に舞台芸術に利用できるホール ○中小規模の会議や大会、講習会などの集会利用にも対応
創造支援 エリア	大スタジオ 大中小練習室 創造スタッフ室 工房及び倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ○舞台芸術の創造活動や市民の練習活動を支えるための機能を備えるスペース ○大スタジオは大ホール主舞台全面、大練習室は中ホール主舞台全面を使った稽古を想定し、その両側に出演者が控えるスペース、正面には、演出家や関係者が控えるためのスペースを確保する ○大スタジオと大練習室は、公演利用を想定した機能を備える ○その他、中小練習室は一時的な公演利用が可能ないように配慮する
交流促進 エリア	オープンロビー インフォメーション 情報コーナー カフェ・レストラン	<ul style="list-style-type: none"> ○いつでも誰でもが気軽に立ち寄り、憩える多目的なオープンスペースとともに、来館者が利用し、賑わいを創出するスペースとする
管理エリア・その他		<ul style="list-style-type: none"> ○施設管理に必要な事務室及び関係諸室、その他（救護室等）を設置する ○機能諸室をつなぐ廊下や階段、機械室を適宜設置する ○防災備蓄倉庫を設置する

(2) 主たる機能諸室の検討・整理

ア 大ホールエリア

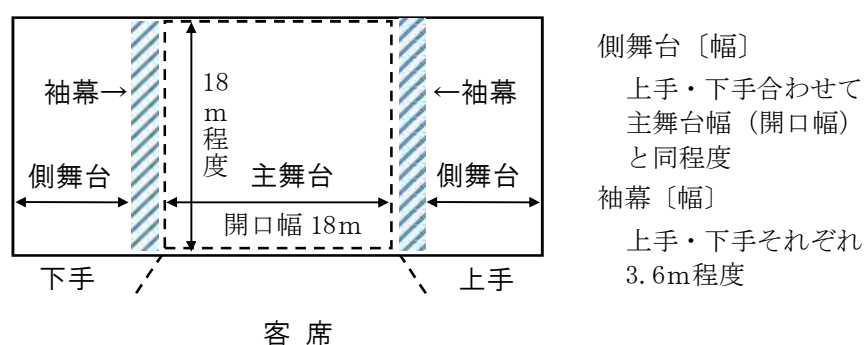
【考え方】

- ① バレエ・ダンス、オペラ、ミュージカル・音楽劇、大型演劇など、これまで現在の市民会館では必ずしも十分に行うことができなかった大掛かりな舞台芸術の鑑賞事業を行うことができる高い専門性を備えた多機能に利用できるホールとして計画する。ポピュラーコンサートやロック、ジャズ・吹奏楽、邦楽・民族音楽などの音楽芸術の公演にも対応できるものとする。
- ② 台詞など肉声の響きに配慮した残響時間（満席時 1.2～1.4 秒程度）となるよう計画する。ただし、物理的な残響可変装置は、設けない。
- ③ 岡山シンフォニーホールとの機能分担を考慮し、音響反射板は設けない。
- ④ 十分な遮音性能と静音性能（NC-20 程度）を確保する。
- ⑤ 大ホールホワイエへの入口は、観客を迎えるに相応しい設えとする。また、一時的に多くの観客が出入りすることに配慮した動線上の工夫を図る。

【舞台】

- ① 様々な舞台芸術に対応できる主舞台及び側舞台の広さを備えた、プロセニウム形式の舞台（開口幅：18m、開口高さ：9m以上、舞台奥行：18m程度、側舞台：上手・下手合わせて18m程度、袖幕のスペース：上手・下手それぞれ3.6m程度）とする。
加えて、主舞台下部に主舞台と同程度の奈落を設置、大迫・小迫等を備える。
主舞台の積載荷重は、500 kg/m²以上を見込む。

【舞台イメージ】



- ② 様々な舞台芸術の上演が可能な今日的機能を備えるとともに将来の成長性を見据えた舞台設備（機構、照明、音響及び映像等機能）を設置する。
- ③ 大ホールで使用する大道具・小道具、衣裳、機材などを簡便かつ安全に搬出入できる大ホール専用の搬入口と荷解場を計画し、大型の搬入物を簡便かつ安全に舞台まで直接搬入できる動線を確保する。この搬入口は、11t 車両（ガルウ

イングタイプ、後方開きタイプ等)やハイキューブ牽引車両などによる利用を想定するとともに、風や雨、雪などの天候や近隣への騒音の対策を行う。また、複数の11t車両を留置きすることが可能な駐車スペースも確保する。

- ④ 舞台に隣接して、倉庫や機材庫、楽器庫（フルコンサートピアノ2台分を収納できる広さを確保する）を設置する。

〔楽屋〕

- ① 大中小楽屋をそれぞれ複数設置する。大楽屋で25人程度、中楽屋で15人程度、小楽屋で2～4人程度の化粧前を備え、出演者・各種デザイナー・舞台技術者・制作関係者などを合わせて200人程度を収容する。
- ② 小楽屋には、トイレ・手洗い・シャワーをそれぞれ設置する。
- ③ 楽屋エリアは十分な廊下幅員（有効2.4m以上）と高さ（2.5m以上）を確保し、楽屋エリア入口には、楽屋事務所を配置する。その他に給湯室、男女別トイレ（多目的トイレを含む）、男女別シャワー室、アーティストラウンジ、洗濯乾燥機室（大型シンク付き）、倉庫・収納庫などを設ける。
- ④ 楽屋の配置では、舞台下手側からの登退場が多いことに配慮した配置とするとともに、主要楽屋は舞台と同じ階に設置し、舞台まで段差なく移動できる計画とする。ただし、楽屋を複数階に積層せざるを得ない場合には、高齢者や障がい者、子どもなどの利用に配慮するとともに、衣裳や持ち道具を持った多数の出演者が支障なく移動することができ、楽器や衣裳用キャリングハンガーを簡単に昇降させることができるエレベータを設ける。また、楽屋エリアでは、関係者の多くが長時間を過ごすことに配慮した設備や環境（開口・換気、外光・遮光、単独空調など）を備える。

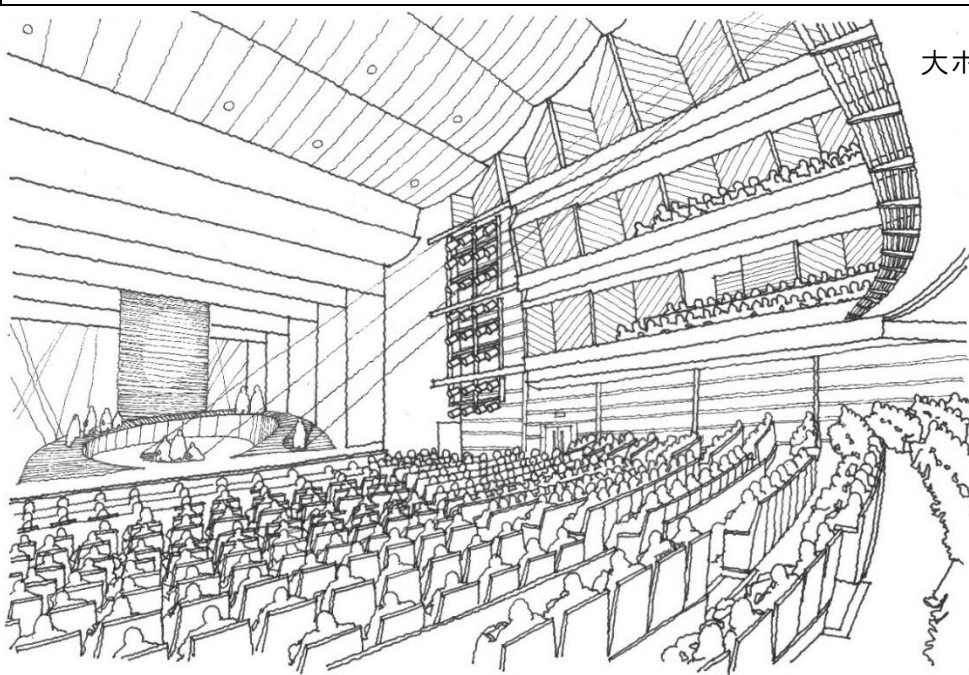
〔客席〕

- ① 現在の市民会館を取り巻く環境や様々なニーズ等を勘案し、1,700席程度の客席数を備える。1階客席前部は、オーケストラピット迫及び客席ワゴンを設けることで客席、前舞台、オーケストラピットに可変する。
- ② 客席先端部から最後部客席までの最大視距離（27m～28m程度）に配慮し、主舞台の全域を見渡すことができる客席配置を検討する。また、オーケストラピット使用時には、全ての客席から指揮者が直接見えるサイトラインを確保する。前舞台を張り出した場合も張出舞台の先端部床面が見える計画とする。客席は、単一勾配の1階客席（900席程度）に加えて、2階あるいは3階の多層バルコニー形式とし、1階客席のみの使用や、1階客席と2階バルコニー席のみの使用を可能とすることで異なる集客数に対応する。また、客席内装は、舞台芸術や音楽芸術を鑑賞するのに相応しい設計とする。
- ③ 座席は、幅（520mm程度）と客席前後の間隔（950mm程度）ともにゆとりのある計画とする。

- ④ 高齢者や障がい者などの鑑賞にも配慮する客席構造を備え、固定客席以外に車いす席を適切に設置する。また、難聴者支援システムなども適宜備える。
- ⑤ 1階客席の後部には、親子での観覧や同時通訳、舞台撮影などの機能を備えた多目的室を設ける。また、音響調整室、調光操作室、投影室などを1階客席の後部に設ける。
- ⑥ 客席の一部は、椅子が簡便に取り外せるようにし、前舞台への張出や演出家や各種デザイナー用の仮設テーブルの設置、場内での舞台音響設備の操作、録画用のテレビカメラの設置などに対応する。
- ⑦ 仮設の脇花道（上手・下手とも）が設置できるようにする。歌舞伎や日本舞踊などの伝統芸能での利用も可能とする。

〔その他〕

- ① ロビー、ホワイエは、一時的に多人数が出入りすることに配慮した入口（数と幅員）を設け、開場前の来館者が風雨にさらされることのないように配慮した構造とする。また、多層階にわたることから、高齢者、障がい者、子どもなどの利用にも配慮する。
- ② 各階のホワイエには、収容人数に応じたトイレを設置する。特に女性の利用者が多いことに配慮した個数、広さを確保する。多目的トイレについては、必要な個数や機能、出入口、動線、広さに配慮して設置する。また、授乳室を設置する。
- ③ ホワイエの一部には、主催者控室の他にクローク、ロッカー、バーカウンターなどを設ける。



大ホールイメージ

イ 中ホールエリア

【考え方】

- ① 演劇やダンス・舞踊、伝統芸能など舞台芸術の創造活動を行い、その成果を広く発信していく高い専門性を備え、主に舞台芸術に利用できるホールとして計画する。また、現在の市民文化ホールがこれまで担ってきた比較的小規模な音楽利用にも対応できるものとする。
- ② 台詞など肉声の響きに配慮した残響時間（満席時 1.2～1.4 秒程度）となるよう計画する。また、可動式音響反射板の使用時には、クラシック音楽など生音の響きを大切に音楽芸術に対応できる音場（残響時間：満席時 1.7～1.9 秒程度）となるよう計画する。
- ③ 十分な遮音性能と静音性能（NC-20 程度）を確保する。
- ④ 大ホール同様に、ホワイエへの入口は、観客を迎えるに相応しい設えとする。また、一時的に多くの観客が出入りに伴って動線上の工夫を図る。

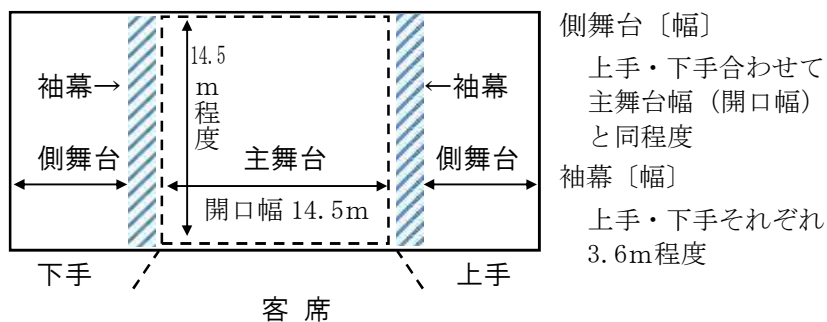
【舞台】

- ① 様々な舞台芸術に対応できる主舞台及び側舞台の広さを備えた、プロセニアム形式の舞台（開口幅：14.5m、開口高さ：8～12m程度に可変、舞台奥行：14.5m程度、側舞台：上手・下手合わせて14.5m程度、袖幕のスペース：上手・下手それぞれ3.6m程度）とする。

加えて、主舞台下部に主舞台と同程度の奈落を設置、奈落からの登退場が可能な舞台床とする。

主舞台の積載荷重は、500 kg/m²以上を見込む。

【舞台イメージ】



- ② 創造活動に対応できる今日的機能を備えるとともに将来の成長性を見据えた舞台設備（機構、照明、音響及び映像等機能）を設置する。
- ③ 可動式音響反射板は、主舞台での演出を阻害しないように主舞台エリア以外の位置に格納できる計画とすることにより、舞台芸術利用にも配慮。また、必要に応じて吸音カーテン等で残響調整が行えるよう検討する。
- ④ 中ホールで使用する大道具・小道具、衣裳、機材などを簡便かつ安全に搬出入できる中ホール専用の搬入口と荷解場を計画し、大型の搬入物を簡便かつ

安全に舞台まで直接搬入できる動線を確保する。この搬入口は、11t 車両（ガ
ルウイングタイプ、後方開きタイプ等）の利用を想定するとともに、風や雨、
雪などの天候や近隣への騒音の対策を行う。また、複数の 11t 車両を留置き
することが可能な駐車スペースも確保する。

- ⑤ 舞台に隣接して、倉庫や機材庫、楽器庫（フルコンサートピアノ 2 台分を収
納できる広さを確保する）を設置する。

〔楽屋〕

- ① 大中小楽屋をそれぞれ複数設置する。大楽屋で 25 人程度、中楽屋で 15 人程
度、小楽屋で 2~4 人程度の化粧前を備え、出演者・各種デザイナー・舞台技
術者・制作関係者などを合わせて 100 人程度を収容する。
- ② 小楽屋には、トイレ・手洗い・シャワーをそれぞれ設置する。
- ③ 楽屋エリアは十分な廊下幅員（有効 2.4m 以上）と高さ（2.5m 以上）を確保
し、楽屋エリア入口には、楽屋事務所を配置する。その他に給湯室、男女別
トイレ（多目的トイレを含む）、男女別シャワー室、アーティストラウンジ、
洗濯乾燥機室（大型シンク付き）、倉庫・収納庫などを設ける。
- ④ 楽屋の配置では、舞台下手側からの登退場が多いことに配慮した配置とす
るとともに、主要楽屋は舞台と同じ階に設置し、舞台まで段差なく移動できる
計画とする。ただし、楽屋を複数階に積層せざるを得ない場合には、高齢者
や障がい者、子どもなどの利用に配慮するとともに、衣裳や持ち道具を持っ
た多数の出演者が支障なく移動することができ、楽器や衣裳用キャリングハ
ンガーを簡便に昇降させることができるエレベータを設ける。また、楽屋エ
リアでは、関係者の多くが長時間を過ごすことに配慮した設備や環境（開口・
換気、外光・遮光、単独空調など）を備える。

〔客席〕

- ① 現在の市民文化ホールを取り巻く環境や様々なニーズ等を勘案し、800 席程
度の客席数を備える。客席最前部は、舞台の張出や簡易なオーケストラピッ
トに可変できるよう可動客席、可動客席床として計画する。
- ② 客席最先端部から最後部客席までの最大視距離（22m~23m 程度）に配慮し
主舞台の全域を見渡すことができる客席配置を検討する。また、前舞台をオ
ーケストラピットとして使用する場合には、全ての客席から指揮者が直接見
えるサイトラインを確保する。前舞台を張り出した場合も張出舞台の先端部
床面が見える計画とする。客席は、1 階客席（600 席程度）に加えて 2 階客
席を備えるバルコニー形式とし、1 階客席のみの使用を可能とすることで異
なる集客数に対応する。また、客席内装は、舞台芸術や音楽芸術を鑑賞する
のに相応しい設計とする。
- ③ 座席は、幅（520 mm 程度）と客席前後の間隔（950 mm 程度）ともにゆとりのあ

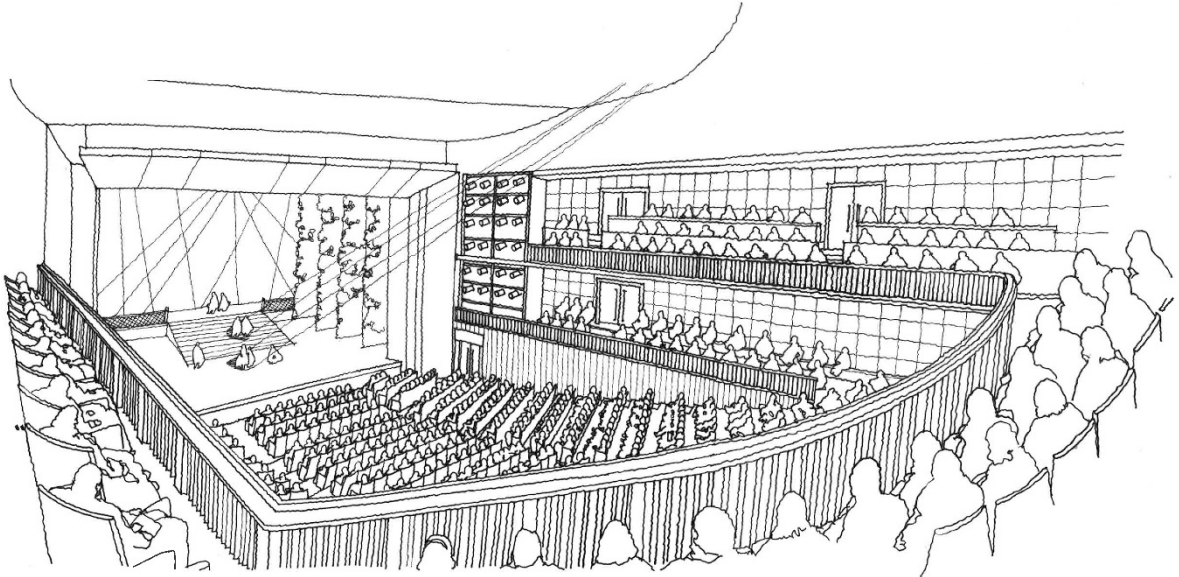
る計画とする。

- ④ 高齢者や障がい者などの鑑賞にも配慮する客席構造を備え、固定客席以外に車いす席を適切に設置する。また、難聴者支援システムなども適宜備える。
- ⑤ 1階客席後部には、親子での鑑賞や同時通訳、舞台撮影などの機能を備えた多目的室を設ける。また、音響調整室、調光操作室、投影室などを同じく1階客席の後部に設ける。
- ⑥ 客席の一部は、椅子が簡便に取り外せるようにし、前舞台への張出や演出家やデザイナー用の仮設テーブルの設置、場内での舞台音響設備の操作、録画用のテレビカメラの設置などに対応する。
- ⑦ 仮設の脇花道（上手・下手とも）が設置できるようにする。歌舞伎や日本舞踊などの伝統芸能での利用も可能とする。

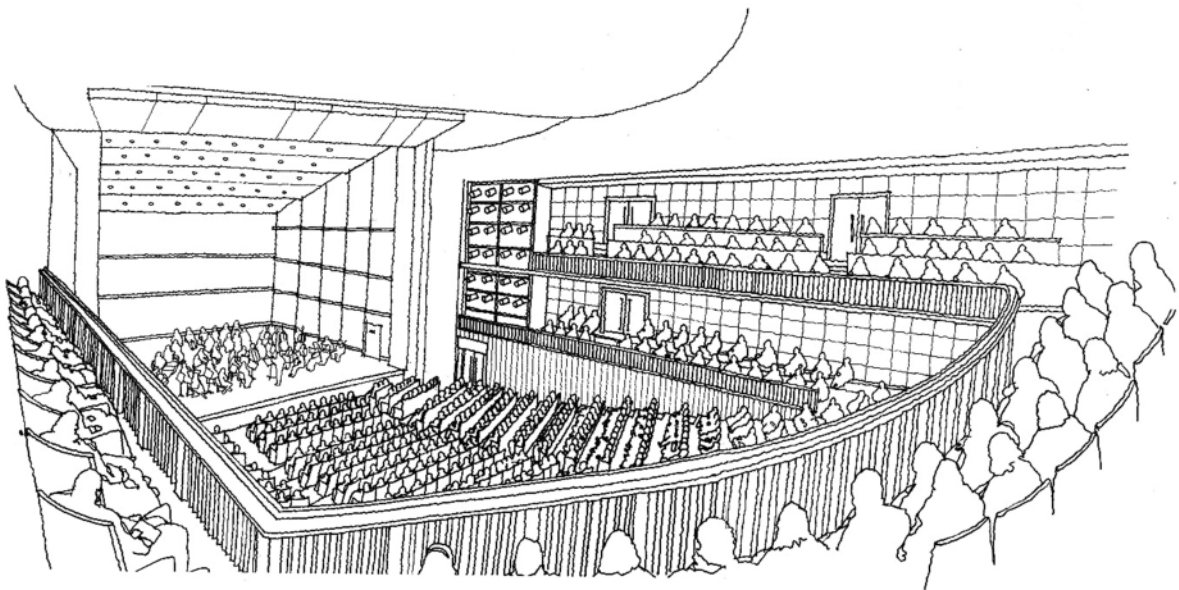
〔その他〕

- ① ロビー、ホワイエは、一時的に多人数が入り出することに配慮した入口（数と幅員）を設け、開場前の来館者が風雨にさらされることのないように配慮した構造とする。また、複層階にわたることから、高齢者、障がい者、子どもなどの利用にも配慮する。
- ② 各階のホワイエには、収容人数に応じたトイレを設置する。特に女性の利用者が多いことに配慮した個数、広さを確保する。多目的トイレについては、必要な個数や機能、出入口、動線、広さに配慮して設置する。また、授乳室を設置する。
- ③ ホワイエの一部には、主催者控室の他にロッカー、バーカウンターなどを設ける。

中ホールイメージ



【幕設置時】



【音響反射板設置時】

ウ 創造支援エリア

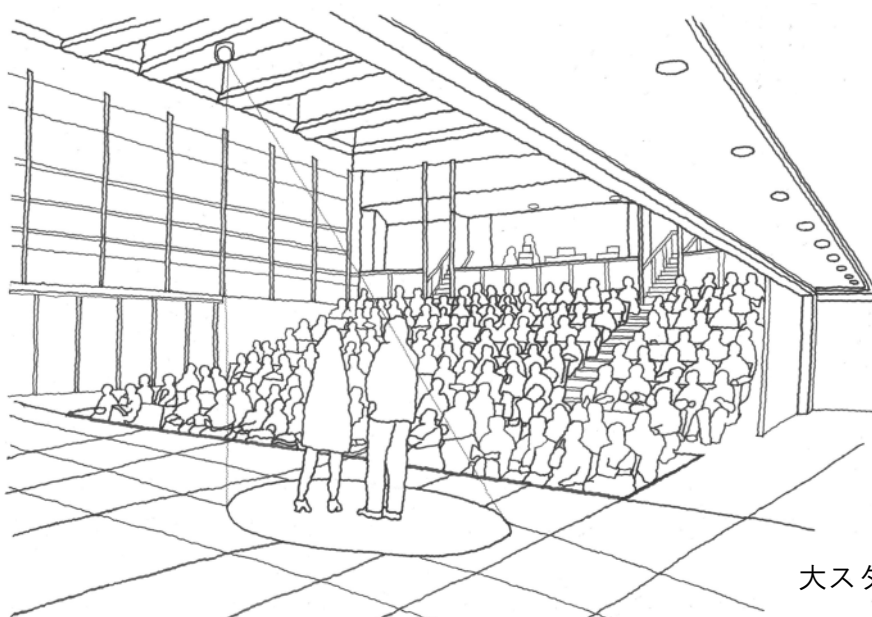
創造支援エリアは、本施設の基盤となる創造活動を行うための諸室で、終日利用により賑わいの創出を期待するとともに、その効果を最大限に活かすことができる計画とします。また、各諸室は、単独での創造活動だけでなく、大ホールや中ホールでの活動を支援するため、一時的な楽屋として利用が可能な動線や機能を備えるものとします。

また、整備される諸室は、外部からの十分な遮音性能を備えるとともに、十分な静音性能（NC-15～20以下）および振動対策を施し、大ホールや中ホールエリアも含めて相互の活動を制約することなく、単独の利用が行えるようにします。また反面、創造支援エリアの各諸室は、大ホール、中ホール等と連携して利用できる必要があります。この創造支援エリア各諸室には、専用の搬入口から、円滑に大道具や機材の搬出入が安全に行えるように計画します。

大スタジオ	<ol style="list-style-type: none">① 大ホール<u>主舞台</u>全面を使った稽古を想定し、主舞台の間口幅に加えて、その両側に出演者が控えるのに十分なスペースを確保する。さらに主舞台の奥行に加えて、稽古エリアの正面には演出家や各種デザイナー、舞台技術者や制作関係者などが控えるのに十分なスペースを確保する。② 組立式の仮設客席床の設置が可能で、小規模な創造活動や発表会、鑑賞事業などにも活用できるものとする。③ 公演を行うために複数の出演者・関係者等の楽屋等諸室を備える。④ 観客のための<u>ホワイエ</u>やトイレ（多目的トイレを含む）を備える。⑤ 大スタジオ上部には、固定の<u>キャットウォーク</u>（床から6m程度の高さに設置、キャットウォーク上部に有効2m程度の歩行高さを確保）を3～4mピッチで備えて投光やスピーカの設置が行えるようにする。⑥ 固定キャットウォーク各間に<u>吊物バトン</u>（最大積載荷重600kg以上・電動ドラム巻取り式）を複数配置する。⑦ 大スタジオの中段には固定<u>技術ギャラリー</u>を設け、その一部が舞台照明設備と舞台音響設備の調整スペースとして利用できるように計画する。⑧ 出演者や関係者が多数となる大ホールや中ホールでの催事にも対応するため、一時的に楽屋として利用ができるよう大ホールや中ホールとの動線を計画する。
-------	--

大中小練習室	<p>① 大練習室は、中ホール主舞台全面を使った稽古を想定し、主舞台の間口幅に加えて、その両側に出演者が控えるのに十分なスペースを確保する。さらに主舞台の奥行に加えて稽古エリアの正面には演出家や各種デザイナー、舞台技術者や制作関係者などが控えるのに十分なスペースを確保したものを設ける。</p> <p>② 中練習室は、150 m² (10m×15m) 程度の広さのものを3室程度設ける。</p> <p>③ 小練習室は、80 m² (8m×10m) 程度の広さのものを8室程度設ける。</p> <p>④ 上記の練習室は、大ホールや中ホールでの公演に向けた稽古や創造活動を行うことに加えて市民が日常的に練習活動を行うことを考慮して、生音、肉声、電気楽器、録音、床の弾性など使用目的が異なる部屋を規模や機能、室数などを考慮して設ける。</p> <p>⑤ 大練習室単独で公演が行える機能を備える。その他、中小練習室でも、一時的な公演利用が可能ないように計画する。</p> <p>⑥ 大ホール、中ホールまたは大スタジオで公演を行う際、臨時の楽屋として利用できる位置に設置する。</p>
創造スタッフ室	<p>① 市民自らが練習や公演（企画、制作、上演など）を行うための拠点となる部屋を設ける。</p> <p>② 各諸室の施設利用者が、必要な資料、用具などを一時的に保管できるロッカーを備える。</p> <p>③ 活動を行っていくために必要な告知資料や印刷物の作成などができる機材や印刷機を備える。</p>
工房及び倉庫	<p>① 大道具製作室（120 m²程度）や小道具製作室（60 m²程度）、衣裳製作室（かつら含む）（60 m²程度）、塗装・着色などのできる作業室（180 m²程度）を設ける。</p> <p>② 上記の他に、大規模な工房（120 m²程度）、小規模な工房（90 m²程度）と機材や材料などを保管するための倉庫や資材庫を設ける。</p>
その他	<p>① 各諸室の施設利用者が共同で利用する給湯室を備えるとともに、休憩のための共通ロビー（トイレ・多目的トイレを備える）を設ける。</p> <p>② 各諸室の施設利用者用の更衣室や手荷物を置いておくロッカールームを男女別に備える。</p>

- ③ 施設利用者はオープンロビーから創造支援エリアの共通ロビーを経由して、各諸室にアクセスする。
- ④ 来館者動線と交錯しない位置に搬入口を設け、各室への搬入が想定される最大規模の搬入物を運搬できる車両が寄付き、搬出入できる動線を確保する。
- ⑤ 本施設の活動に連動した展示などが行えるスペースを設ける。



大スタジオイメージ



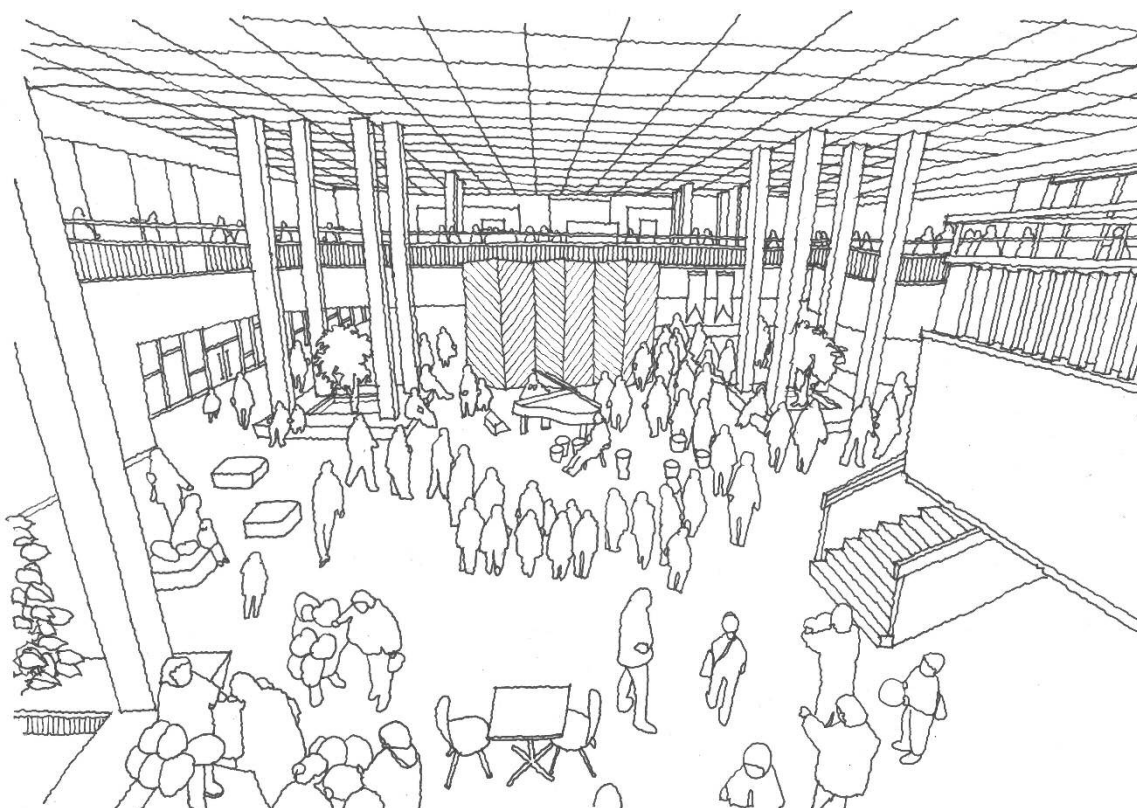
練習室イメージ

エ 交流促進エリア

来館者を迎え入れる建物の主要な入口であり、初めて来館される方でもわかりやすい位置に設けるとともに、外観として認識しやすい象徴性を備えます。また、地域の賑わいに貢献できる形状とします。

観客や施設利用者だけでなく、誰でも自由に使うことができる場所を提供することで、市民や岡山を訪れた人々の世代や分野を越えた交流の機会を創出するスペースとします。

オープンロビー その他	<ul style="list-style-type: none">① 来館者の便益性を図るためにインフォメーションや情報コーナーを設けることに加え、カフェやレストランなどの飲食機能、トイレ（多目的用を含む）を併設する。また、来館者の利便性に配慮し、公衆Wi-Fiなどを設置する。② オープンロビーから、観客や施設利用者が大ホールエリア、中ホールエリア、創造支援エリアに簡便かつ安全にアクセスできる動線を確保する。③ オープンロビーでのミニコンサートやイベントの開催を想定し、舞台照明や電気音響設備、電気楽器などを使用するのに必要な電源・吊物バトン等を備える。
----------------	--



オープンロビーイメージ

オ 管理エリア・その他

管理エリアには、管理事務室の他に来館者のための救護室等を併設します。また、来館に際してお手伝いが必要な方々のための駐車スペースなどへのアクセスにも配慮した動線を計画します。

管理事務室 その他 (救護室等)	<ul style="list-style-type: none">① 全ての諸室に短時間でアクセスできる配置・動線を確保する。② オープンロビーに面して、来館者の利便性を図るための窓口（インフォメーションやチケットカウンターなどの併設も検討）を設ける。③ 気分が悪くなった方や外傷を負った方の一時的休憩及び応急処置スペースを設ける。場合によっては救急隊などの到着を待つ場所でもあるので、救急車などが近接して駐車でき、短時間で円滑に救急車まで移動できる位置に計画する。また、管理運営者が容体を逐次監視できるよう管理事務室近くに設置することが必要。④ 観客や施設利用者などが必要に応じて利用できる託児スペースを計画する。様子を容易に確認できる工夫が必要。⑤ 施設利用申請者との打ち合わせスペースを設ける。⑥ 清掃や警備等のスタッフ用の控室を設ける。⑦ 各機能諸室を有機的につなぐための廊下や階段などを適宜設ける。⑧ 各エリア・諸室に空調、電気、給排水などを供給するための機械室を適宜設ける。⑨ 非常時や災害発生時に備えて、建物の一部に防災備蓄倉庫を設ける。
------------------------	---

5 施設計画

(1) 動線の考え方

本施設の動線には、大別して以下の3つの動線が必要です。これらの動線は、劇場施設の特異性に鑑み、安全性と利便性に加えて、“ハレの場”に相応しいもてなしを堅持するために、基本的に分離して計画します。

ア 来館者動線

主に、周辺の街路から来館する観客や施設利用者などを想定し、誰もがアクセスしやすくする。

イ 大ホール・中ホール出演者、関係者動線

主に、大ホール・中ホールで上演される演目への出演者や関係者の動きを想定し、観客やホール以外の施設利用者の動線と交わらないようにする。

ウ 大道具等搬入動線

公演や催物で使用する道具や機材などの動きを想定し、簡便かつ安全な運搬を可能とする。

また、本施設は市街地再開発事業により整備される複合施設であり、本施設以外の施設部分や共用部分の建物設備諸室等への動線についても、別途その必要性に応じた検討を行います。

ア 来館者動線

(ア) 建物の主要な入口からは、観客や施設利用者だけでなく、誰もが気軽に立ち寄ることができ、常に全ての市民に開かれた動線を計画します。

(イ) オープンロビーまでは、観客や創造支援エリアの施設利用者をはじめとする来館者が複数の方向からアクセスできる動線を確保します。

(ウ) 大ホール・中ホールにはホワイエを設け、観客が短時間に各ホール内客席に入りできる動線を確保します。また、ホールで催事がない場合には、ホワイエもオープンロビーの一部として一体利用できるように検討します。

(エ) 創造支援エリアは、オープンロビーから創造支援エリアの共通ロビーを経由して、各諸室を利用できる動線を備えます。

(オ) 高齢者や障がいのある方、子どもなどを含む、誰もが安全に支障なく施設を利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した計画とします。そのために必要な個所に点字サインやブロック、斜路や手すりの設置、エレベータ・エスカレータ、多目的トイレを設置します。

イ 大ホール・中ホール出演者、関係者動線

(ア) ホールの出演者や関係者が、建物に出入するための楽屋口を設け、来館者動線とは別の動線を確保します。また楽屋事務所は、楽屋口からの出入を監視できる位置に配置します。

(イ) 出演者や関係者は、上演に影響を与えることなく、楽屋から簡便かつ安全に舞台に登退場できる動線を確保します。また、創造支援エリアを楽屋として利用する場合は、同エリアにも容易に移動できる動線を確保します。この動線は、創造支援エリアの施設利用者の動線とは、一時的に分離できるように配慮します。また、出演者や関係者がホワイエあるいは管理事務所に移動するための動線も検討します。

ウ 大道具等搬入動線

(ア) 公演や催事ごとに、大道具や小道具、衣裳、楽器、舞台機材などを搬出入するため、搬出入に必要な車両が簡便かつ安全に寄り付ける搬入口を計画します。

(イ) 搬入物によっては、天候や温度・湿度、振動や衝撃に影響を受けやすいものもあるため、舞台への移動距離は極力短くなるように計画し、搬入物の大きさや重量などに配慮した動線とします。

(ウ) 転倒や落下、接触などの事故を未然に防ぐため、大道具等搬入動線は、出演者、関係者動線とは隔離した計画とします。

(2) 施設配置の考え方

市街地再開発事業として、本施設に加えて、「商業」、「事務所」、「住宅」などの施設を複合化することが提案されています。これらの異なる施設を整備予定地に効果的に配置するために、以下の点に考慮して、本施設の配置を検討します。

ア 周辺街区への賑わい誘導

(ア) 計画敷地西側の表町商店街は、歴史文化ゾーンと本施設を結ぶ軸線を形成しています。この商店街への賑わい創出は、市街地再開発事業の重要な使命でもあります。そのため本施設だけでなく、複合化される本施設以外の施設部分と一体となった、商店街に対する賑わいの仕掛けづくりが必要となります。短期的な視点ではなく、中長期的な視点での賑わいの創出を目指す必要があります。

(イ) 敷地南を東西に結ぶ幹線は、中心市街地 1 kmスクエアを形成する道路であり、計画敷地だけでなく、中心市街地としての“顔”出しが求められます。本施設の象徴となる顔も、この幹線道路に対して露出することが街区を形成するための重

要な視点となります。

- (ウ) 敷地東側が面する幹線は、中心市街地 1 km スクエアを形成する縦軸であり、計画敷地は、岡山市の中心市街地 1 km スクエアの南東角を形成する重要な位置にあるため、「新京橋西」交差点に面する角地は、街区の象徴性としての設えが必要です。

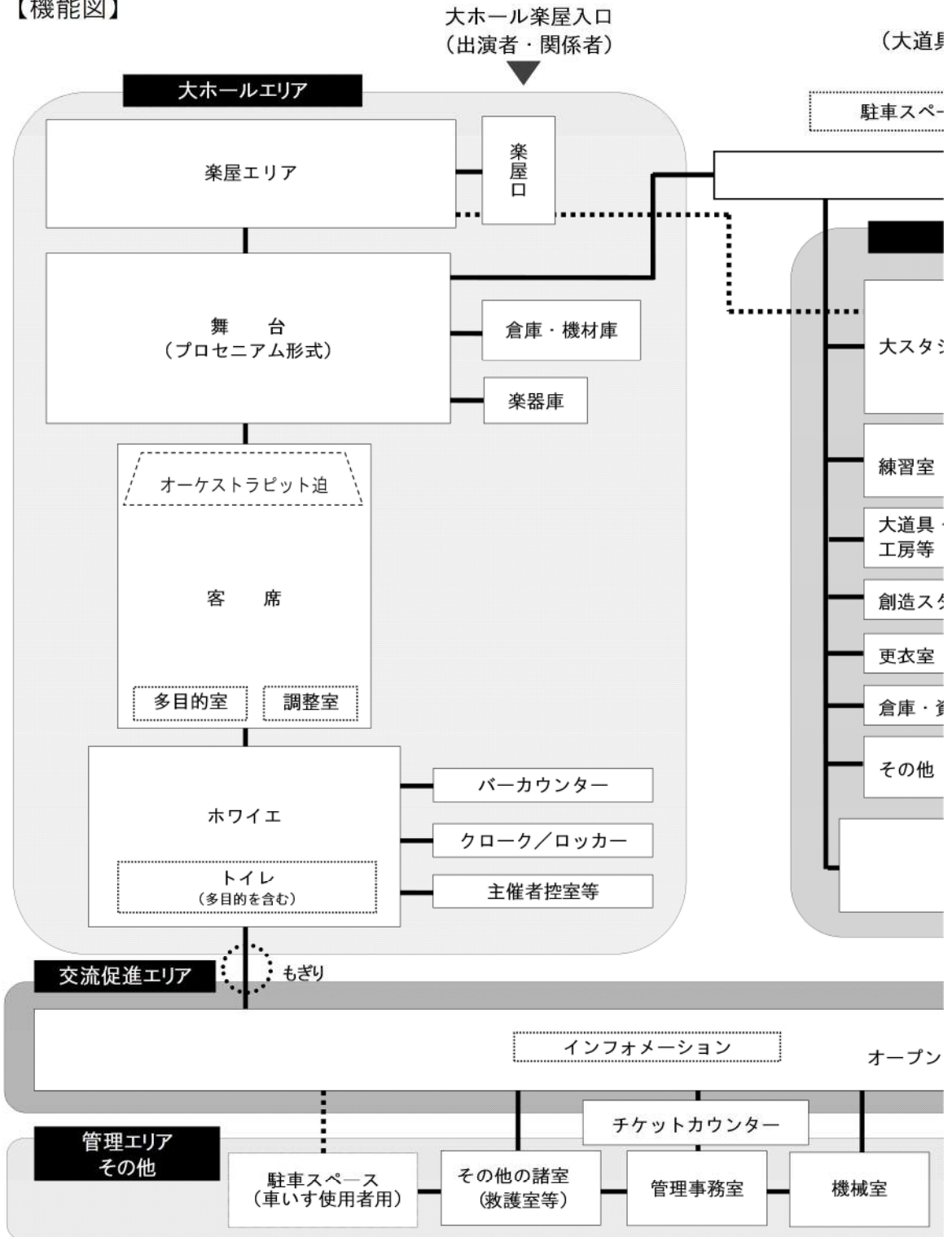
イ 象徴としての外観

- (ア) 本施設は、現在の岡山市民会館に代わる新たな文化芸術施設となることから、これまで現在の岡山市民会館が担ってきた以上に、文化芸術の新たな拠点となるシンボル性や象徴性が建物のデザイン及び外観として求められます。単なる複合化された建造物でなく、岡山市の新たな文化芸術拠点として岡山市民を導くような優れた設計が必要です。
- (イ) 岡山市の中心市街地の一角を構成する施設として必要な象徴性に加えて、地域の活性化や賑わいを誘引する起爆剤となるような優れたデザイン性が必要です。

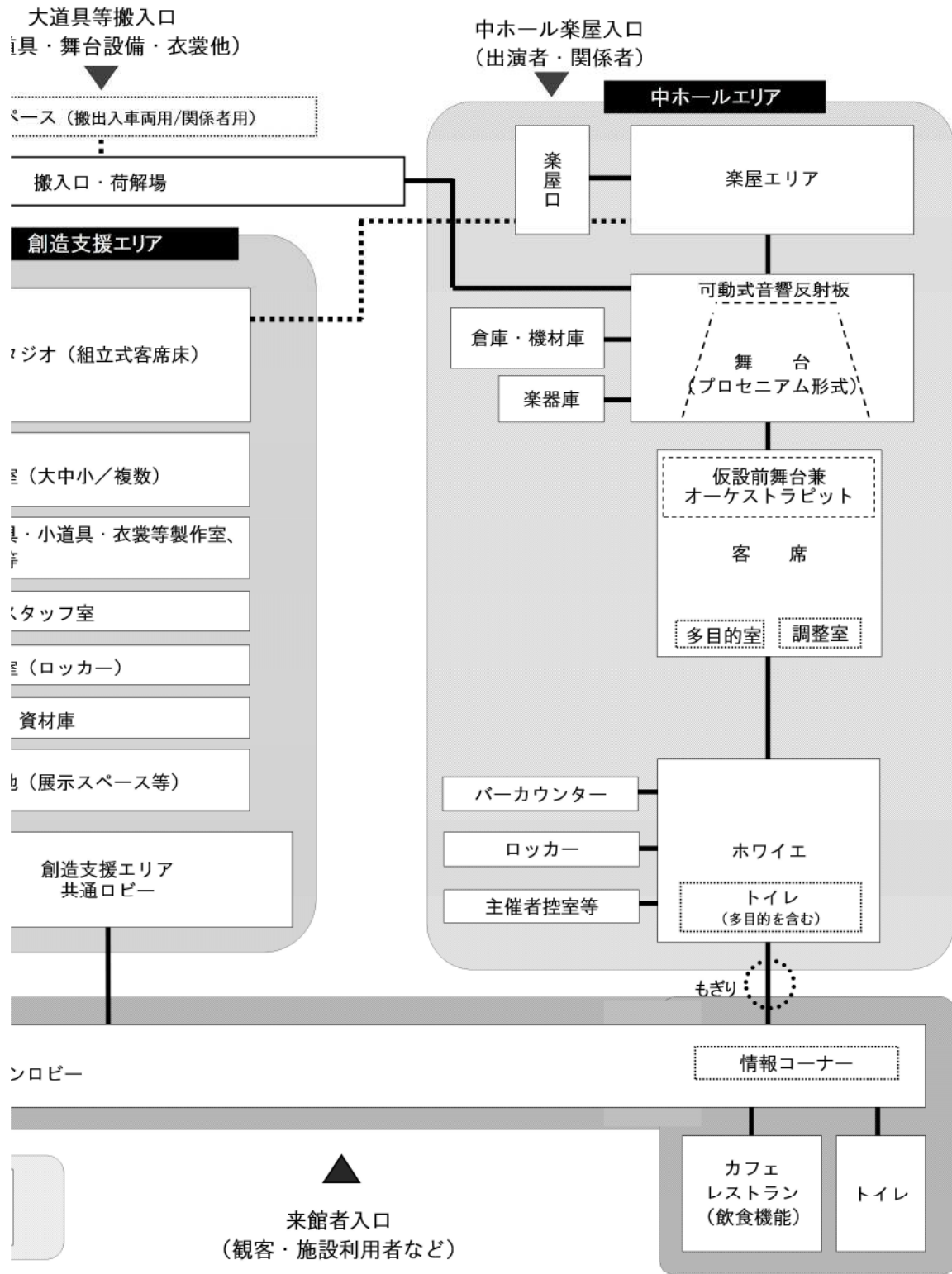
ウ 高さへの配慮

- (ア) 劇場施設は、その機能上客席及び舞台を形成するための大きなボリュームが必要なビルディングタイプで、最も高い部分が 30m に及ぶことがあります。特に舞台部分は、垂直な壁がそびえ立つことから、そのボリューム感が周辺街区の形成に影響を及ぼさない工夫が必要です。
- (イ) 岡山市の景観計画など中長期的な視点に立ち、計画敷地のデザインが周辺街区の魅力的な都市街区形成の中心的役割を担うために、デザイン調整（仕上げや色彩計画などを含む）や外構計画なども専門的な知見を投入し、建物の設計と同時並行して進める必要があります。また、後樂園背景保全地区内であり、後樂園からの見え方に留意します。

【機能図】



- 各機能で関連性が高いことを示す (動線が必要)
- 各機能で関連性があることを示す



大ホールエリア	約 6,000 m ²
中ホールエリア	約 3,000 m ²
創造支援エリア	約 3,700 m ²
交流促進エリア	約 800 m ²
管理エリア・機械室等	約 6,500 m ²
合計	約 20,000 m ²

(3) 管理区分計画の考え方

本施設は、市街地再開発事業で整備される複合施設の一部となることから、管理の区分として、専有部分と共用部分が発生します。

このため、本施設以外の施設部分と連携を図りつつ、文化芸術施設としての機能を損ねることなく管理できるよう適切な管理区分を検討します。

ア 賑わいの創出

本施設を、地域の賑わいの創出につながる施設としていくためには、複合化される本施設以外の施設部分と一体となり、賑わいの創出を実現していく必要があります。加えて、地域商店街との連携や岡山市の都市政策との連携など、再開発区域だけでなく周辺及び岡山駅からの1 kmスクエアが一体となった市街地再開発事業として位置づけていく必要があります。

イ セキュリティの考え方

再開発施設内に複合化される各施設では、利用目的、利用エリア、利用時間等がそれぞれ異なることが想定されます。そのため、施設の配置において各区分の管理がしやすい建物全体の計画やセキュリティが求められます。

専有部分内においても、楽屋や管理事務室などのエリアと不特定多数の来館者が自由に行き来できるエリアとは、明確に区分できる配置を計画したうえで、ICカードなどによる出入の管理を検討する必要があります。

ウ 動線の考え方

再開発施設全体として本施設以外の施設部分との連携や、一体的な管理も想定されるため、劇場・ホール施設としての機能を損なわない専有できる動線を確保することが求められます。

エ 専有/共用の考え方

区分所有建物となり、共用部分においても専用使用部分や一部共用部分等も生じることが想定されます。施設運営経費にも影響を与えることから、適切な管理区分が必要です。

オ 将来の改修に向けての考え方

劇場施設は、竣工後10年～20年で建物の大規模な改修が計画されることが少なくありません。異種用途の施設と複合化される施設であり、それぞれの施設によって改修時期が異なることを考慮すると、電気や給排水衛生、空調などの建築設備の改修については、本施設単独での改修が可能となるよう予め設備計画について考慮する必要があります。

(4) 設備計画の考え方

ここでは、建築設備（電気、空調、給排水衛生、昇降機等）と舞台設備（機構、照明、音響、投影設備等）に分け、考え方や留意すべき事項などを整理します。

機器の選定に当たっては、将来の修繕や改修、機器の更新に十分配慮すると共に、ライフサイクルコスト（LCC）の低減及び建築環境総合性能評価システム（CASBEE）Sランクを目指す計画とします。

ア 建築設備

(ア) 電気設備

劇場施設の電気設備は、一般的な動力や電灯系の電源だけでなく、舞台設備が設置されることに伴い、様々な電圧や給電システムについて考慮することが求められます。特に舞台音響設備は、ノイズの影響を受けやすく、複合化される本施設以外の施設部分も含めたノイズ対策が必要です。

また、舞台周りでは電源盤の配置や配電方式、調光などにも配慮します。

(イ) 空気調和設備

劇場では、大空間の温度や湿度の管理だけでなく、静音性能の確保や風速の影響による幕揺れの防止などが大きな課題となります。そのため観客がいるエリアだけを空調する居住域空調や気流を発生させない置換空調システムなど、劇場という大空間施設の特性を踏まえたシステムを設置します。

(ウ) 給排水衛生設備

劇場内の衛生設備は利用時間帯が限られることから、十分な需要を見据えた上で、適正な設備導入を検討します。また、トイレについては、一時的な集中利用に対応できる個数および動線を計画します。

(エ) 昇降機設備

劇場の多層にわたる客席間移動は、高齢者、障がい者、子どもなどの大きな負担となります。そのためエスカレータ及びエレベータなど昇降設備の設置が必要です。

(オ) その他

複合化された本施設以外の施設部分との共用も多くなりますが、施設ごとに稼働時間や稼働方法が異なることや、将来設備の一部を改修する際に、それによって劇場設備の稼働が制約されないために、独立性の高い設備計画とします。

イ 舞台設備

(ア) 舞台機構設備

吊物設備は、舞台装置や舞台照明、幕をいずれのバトンでも吊り込める計画とします。また、床設備の舞台迫、オーケストラピット迫を含めて駆動動力は全て電動で、電子制御とします。舞台機構設備は、舞台下手袖での操作を基本としますが、安全を確保する上で、移動型の操作卓とします。

[大・中ホール共通]

- ・舞台上部に設置する吊物設備は、全て電動とする。
- ・吊物バトン（積載荷重 1.2t 程度）は、静音型タイプとする。
- ・吊物バトンは、無段階可変速（0～90m/min 程度）機能を備え、ドラム巻取り式とする。本数は、舞台奥行きを踏まえて十分な本数を等間隔に設置する。

[大ホール]

- ・2本程度のライトブリッジが任意の位置に吊下げられるように計画する。
- ・幕設備には、緞帳及びオペラカーテンを備える。一文字幕、袖幕、暗転幕、大黒幕、中割幕、東西幕は、ウールサージとする。
- ・主舞台には、演出に対応できる大迫・小迫を設ける。
- ・オーケストラピット迫と客席ワゴンを設けることで、前舞台、客席、オーケストラピットに可変させる計画とする。客席ワゴンについては、固定客席下部に客席ワゴン格納庫を設ける。

[中ホール]

- ・1本以上のライトブリッジが任意の位置に吊下げられるように計画する。
- ・幕設備には、緞帳及び引割幕を備える。一文字幕、袖幕、暗転幕、大黒幕、中割幕、東西幕は、ウールサージとする。
- ・音響反射板は、主舞台に影響がない位置に吊り込んで格納できるシステムとする。また、音響反射板ライトは、0～100%調光が可能な LED とする。

(イ) 舞台照明設備

舞台照明設備は、いずれのバトンでも灯体を吊り下げて舞台照明バトンとして使用できるシステムとします。また客席内は、プロセニウムサスペンションライト、フロントサイドライト、シーリングライト、フォロースポットライトなどを計画します。現時点では従来のハロゲン光源とする舞台照明設備計画としますが、調光器は、将来の LED 化を見込んでインテリジェント機能を備えた移動型調光器で計画します。ただし、LED 化の傾向に変化があった場合には見直すことがあります。これらの調光制御は、客席後方の調光操作室で行いますが、簡易な操作は、舞台下手袖でも行えるよう遠方操作卓を設けます。

また、舞台照明の電源は単相三線を基本とし、100V と 200V の両方を簡易に取

り出すことができる給電方法とします。

[大・中ホール共通]

- ・主舞台上部の吊物バトンやライトブリッジに簡便に設置ができる移動型調光器を基本とする設備計画とする。
- ・主舞台内には、その他にトーマンタルタワーライトやフライギャラリーからも投光できるように計画する。また、舞台床面各所からフローアコンセントが取り出せるように配慮する。
- ・バルコニー客席の舞台寄りの先端には、バルコニーライトが設置できるように配慮する。
- ・調光操作室は、1階客席の最後部に配置する。調光操作卓は、ハードバックアップを基本とし、インテリジェント機能を備える。

[大ホール]

- ・ボーダーライト (3列程度)、サスペンションライト (5列程度)、アッパーホリゾンタルライトに加えて、前舞台上部にプロセニウムサスペンションライトバトンを2列程度適宜配置できるように計画する。
- ・シーリングスポットライト投光室を2列設ける。
- ・フォロースポットライト投光室は、最大6台のフォロースポットライトが配置できるようにする。
- ・フロントサイドライト投光室は、横4列、上下8段程度のスポットライトが設置できるようにする。また、ムービングライトや仮設のスポットフォローが行えるように配慮する。

[中ホール]

- ・ボーダーライト (2列程度)、サスペンションライト (4列程度)、アッパーホリゾンタルライトに加えて、前舞台上部にプロセニウムサスペンションライトバトン1列を適宜配置できるように計画する。
- ・シーリングスポットライト投光室を1列設ける。
- ・フォロースポットライト投光室は、最大4台のフォロースポットライトが配置できるようにする。また、フォロースポットライト投光室の両側を第2シーリングスポットライト投光室として活用する。
- ・フロントサイドライト投光室は、横4列、上下6段程度のスポットライトが設置できるようにする。また、ムービングライトや仮設のスポットフォローが行えるように配慮する。

(ウ) 舞台音響設備

舞台音響設備では、デジタル制御方式の音響調整卓を中心に、拡声、再生、録音機能を備えた電気音響設備を整備します。電気音響設備は、電氣的なノイズの

影響を受けないよう電源や接地、配線等に配慮します。設備の操作は客席後部に設けた音響調整室で行いますが、簡易な操作は舞台下手袖でも行えるようにします。また、必要に応じて客席内でも音響調整ができる計画とします。

舞台進行上の連絡を行う舞台連絡設備を舞台各所に設け、上演中の音声をモニタリングするモニター設備と上演中の映像監視を行う ITV 設備を計画します。

舞台音響電源は、ノイズの影響を受けやすいことから受変電設備を計画する段階から影響を避ける対策を講じます。

[大・中ホール共通]

- ・プロセニアムスピーカ、フロントサイドスピーカ、フロントスピーカ、フィードバックスピーカ、ウォールスピーカ、シーリングスピーカに加えて、必要に応じて補助スピーカを適宜設置する。
- ・基本的なシステムは、デジタルシステムとする。
- ・音響調整室は、1階客席の最後部に配置する。音響調整卓は、デジタル方式とし、ハードバックアップを基本とする。
- ・舞台進行監視システムとしてITVカメラ（暗視性能を備えたものを含む）を舞台や客席、奈落や搬入口など必要な箇所に設置する。また、モニターTVを各楽屋諸室、上下舞台袖、各調整室や事務室などに加えてオーケストラピット内や客席バルコニー先端などにも仮設で設置する。
- ・舞台での発生音を各楽屋諸室、上下舞台袖、各調整室、事務室、そしてホワイエでモニターできるように必要な箇所にモニタースピーカを設置する。
- ・舞台を進行していくための連絡設備としてインターカムを設置する。舞台監督卓を中心に上下舞台袖、フライギャラリ、すのこ、奈落、各調整室、各楽屋諸室、搬入口、ホワイエ、もぎりなどを必要に応じて連絡がとれるように計画する。場合によっては、ワイヤレスインターカムやインターホンなどの連絡設備も設ける。
- ・舞台連絡設備をホール及び楽屋廻り、ホワイエ等に過不足なく配置する。

(エ) 映像設備

プロジェクターの設置を計画します。映像機材は、日々機能を進化させていることから、調達時点で最も適切な機能を備えている機材を選定します。また、映像設備は舞台芸術の演出設備としても重要な役割を担う設備であることから、必要に応じて仮設で複数台配置できるスペースを確保します。

(オ) 舞台中継録画（仮設）

必要に応じて舞台の中継録画を行うための配線の引き込みおよび電源対応を

行います。また、建物内部では、映像等仮設ケーブルを来館者避難の障害にならないように敷設できる対策を整えると共に、簡便に設置できる対策を講じます。

(カ) 舞台関連備品

舞台関連備品として、大道具備品、舞台照明備品、舞台音響備品、映像備品、楽器備品などが上げられます。それぞれの備品選定、調達については、施設工事での整備内容を十分に配慮するとともに、様々な調達手法を比較検討して効率的、効果的な設置を目指します。

(5) その他の検討

その他、施設計画を進めるにおいて留意すべき事項などを整理します。各段階において、その対応を図ります。本施設は、市街地再開発事業で整備される施設の一部となるため、再開発施設全体計画の中での検討も必要です。

ア 芸術文化の拠点として相応しいシンボル性や内装デザインへの配慮

本施設は、新たな岡山市の文化芸術を積極的に発信していく施設です。そのための象徴となる建物のシンボル性や外観デザインの質の高さは集客力の大きな力となり、再開発区域だけでなく新たなまちのイメージをつくっていくという点においても大変に重要な要素となります。また、内装や客席内のデザインも、優れた舞台芸術や音楽芸術を上演し鑑賞するために相応しい“ハレの場”となるデザインが必要です。

イ 地域の賑わいをうみだすための工夫

再開発区域内においては、本施設とそれ以外の施設部分が一体となり市街地再開発事業の目的の一つである地域の賑わいの創出に寄与をしていきます。そのためには、再開発施設全体で協調し連携していく取り組みが不可欠です。さらには周辺地域、そして中心市街地にその取り組みが波及、派生していく仕組みを施設整備と並行して作り上げていくことが必要です。

ウ ユニバーサルデザインへの配慮

本施設は、高齢者や障がい者、子どもなど様々な方が利用するため、誰もが制約なく利用できるよう、外観や内装のデザインに十分に配慮しつつ、ユニバーサルデザインへの配慮と取り組みを行っていくことが必要です。

エ ライフサイクルコスト低減化、省エネルギー、環境との調和など

劇場施設は、大空間を必要とする施設であることからイニシャルコストだけでな

く、ランニングコストにも配慮した計画が必要となります。特に、舞台設備などは、竣工後数年から改修や更新が必要になる設備もあることから、ライフサイクルコストを見据えた施設計画、設備計画であることが必要です。計画にあたっては施設利用の実態に即し、省エネルギー化を図るとともに太陽光など再生可能エネルギーの活用や環境との調和に配慮します。

さらに、複合施設であることから、共用部分での経費縮減や改修への配慮については、施設計画の初期段階から具体的な取り組みを行うことが必要です。

オ 振動対策・遮音性能・静音性能

(ア) 本施設は、舞台芸術や音楽芸術を上演したり練習したりする機能が中心の施設であるにも関わらず、街区周辺が幹線道路で囲まれていることから通行車両の現状を踏まえた十分な振動対策を行う必要があります。

(イ) 振動対策と合わせて、街区周辺の車両から発生する騒音から舞台や客席、スタジオや練習室を守るための遮音性能が必要です。また、静音性能の高い空間としていく必要があります。

カ これからの時代に求められる機能

全国に整備をされてきた劇場・音楽堂等施設は、近年新しい転換期にあります。それは鑑賞する劇場から、参加、創造する劇場への機能の転換です。公演を鑑賞する場としての役割だけでなく、劇場が拠点となり企画、創造し、文化活動を推進していく機能が求められるようになってきました。本施設は、それを実現できる機能と設備を備え、演出の多様性、可能性を最大限に引き出すことができる施設とすることが必要です。

キ 機材や設備の調達

劇場や舞台に関連する機材や設備は、その性能や機能が日々進化をしています。そのため、常に新しい情報に注目し、その時々最新の性能や機能を備えたものを設置できるようにします。

ク 駐車・駐輪場などの整備の考え方

劇場・ホール施設には、大道具や舞台設備を搬入するために大型の搬入車両が寄り付ける搬入口の整備が不可欠ですが、あわせて出演者や関係者の車両を留め置ける駐車場の確保が必要です。また、高齢者や障がいを持つ方用の駐車スペースの確保や団体鑑賞を行う場合のバスなどが寄り付けるための車寄せスペースの確保も必要です。さらに、自転車での来館者に配慮した駐輪場も適宜整備します。

ケ 防災対策

- (ア) 過去の震災の被災状況を踏まえて、大規模な震災が発生した場合にも安全な耐震性能を備えます。併せて、大規模な震災が発生した場合でも、短時間で安全に避難できる建物構造であるだけでなく、一時的に安全に余震を避けられる空地などを敷地内に確保します。
- (イ) 火災が発生した場合に、周辺街区に火災が広がるのを防ぐ建物計画とします。
- (ウ) 災害発生時の一時避難場所として機能を備えることとします。
- (エ) 災害発生時等に、施設内の必要な設備へ電力供給を行うため、非常用発電設備を計画します。
- (オ) 近年頻発している集中豪雨時などの浸水被害の最小化を図るため、雨水流出抑制施設の設置を検討します。

コ 植栽等緑化対策

「岡山市緑の基本計画」や「岡山市公共公益施設緑化の手引き」を踏まえつつ、積極的な緑の取り組みを検討していきます。

6 施設整備事業費などの考え方

(1) 建設費及び概算整備費

近年整備された文化芸術施設の建設事例によると、床面積 1 m²当たりの建設費は約 75 万円程度（税抜）となっています。ただし、国土交通省が示す労務費単価の上昇や、東京オリンピック開催に伴う建設需要の高まりによる資材費の高騰などの要因により、今後変動していく可能性があります。

本施設は、市街地再開発事業により整備された建物の一部（本施設部分の床）を、市が保留床として取得することを想定しているため、概算整備費は、市街地再開発事業において算出される保留床取得額^(※)（共用部分の按分額を含む）になります。

なお、今後の市街地再開発事業の設計、工事等の事業計画の進捗に伴い算出される概算整備費を受けて、本市の将来的な財政運営への影響も見据え、本基本計画との整合性を十分精査するものとします。

(※) 保留床取得額とは、施設の建設費だけでなく、以下のような施設の整備に必要な経費の一部を含め、施行者から保留床として買い取るために必要な費用です。

主な経費	経費に含まれる主な項目
調査設計計画費	事業計画作成費/測量費/地盤調査費/建築設計費/権利変換計画作成費 など
工事費	既存建物解体・撤去費/施設建設費（建築工事費、各種設備工事費）/外構工事費/道路整備費 など
補償費	用地補償費/建物補償費/借家人補償費/営業補償費/工作物補償費 など
その他経費	借入金利子/事務費 など

【参考】

千日前地区市街地再開発準備組合による整備候補地検討時における提案内容

施設規模：18,875 m²（全体共用按分含 19,291 m²）

建設単価：68.9 万円/m²（税抜）

建設費：約 146 億円（税込）

保留床取得額：約 165 億円（税込）

※ 舞台機構・舞台照明・舞台音響等や備品購入経費は含まない

整備費の財源として、岡山市にとって有利な財源である合併推進債を活用し、実質的な市の負担軽減を図ります。合併推進債を活用するためには、平成 33 年度末までの施設整備が必要となります。

(2) 運営費等の考え方

本施設を、岡山市の文化振興施策を具現化させていくための拠点施設として運営し、市の文化事業を継続的かつ効果的に展開していくためには、一定の経費の支出（岡山市の将来に向けた文化への投資、文化を活かしたまちづくりへの投資）が必要となります。

一方、事業や活動を継続的に行うためには、使用料収入や事業収入を高めるよう努めるとともに外部からの助成金などを積極的に得るなど、自己財源比率を高めるように努める必要があります。

【想定される収支項目】

収入	支出
○使用料収入 ○事業収入 （入場料、事業参加費、外部からの助成金など） ○その他 （自動販売機、公衆電話など目的外利用等による収入） ○市からの収入 （指定管理者制度導入の場合は指定管理料）	○事業費 ○人件費 ○維持管理費

ア 収入の考え方

(ア) 使用料収入の確保

使用料収入は、収入の大きな柱です。受益者負担の考え方に基づき適切な使用料の設定のほか、施設の利用促進に向けた営業活動を積極的に行うなどにより、使用料収入の確保を図ります。また、あわせて市民が利用しやすい料金体系や料金設定についても検討していきます。

(イ) 外部からの資金の確保などによる事業費における自己財源比率の向上

事業活動を継続的に実施できるよう、自己財源比率の向上をめざし、公的な助成金や補助金の獲得に努めるほか、企業からの協賛金やスポンサーなどの獲得に向けて、積極的に活動を行います。また、ネーミングライツなどの導入についても可能性を検討していきます。

(ウ) 再開発施設全体としての営業活動による独自財源の検討

複合化される施設内には商業施設が計画されることから、連携して再開発施設全体として収益活動を行います。そのことにより新たな独自財源の獲得を目指します。

イ 支出の考え方

(ア) 事業費

岡山市の文化振興施策を担う拠点施設として相応しい文化振興やまちづくりに寄与する事業を展開していくための経費です。これらの事業については、費用対効果はもちろん長期的な成果などを十分に検討した上で実施します。

(イ) 柔軟性の高い組織体制

施設を運営するために必要とされる専門的な職能や人材を配置するとともに、施設として柔軟に対応できる人員の確保と組織体制とする必要があります。また、職務に見合った給与体系を設定し、適切な人件費による運営を行います。

(ウ) 効果的かつ効率的な維持管理の実践

施設の維持管理費には、文化芸術施設としての様々な機構を維持するための定期的な設備メンテナンス費や舞台関係保守点検費が含まれます。また設計、施工、開館後の管理運営までを総合的にとらえ、効果的かつ効率的な保全や運営を実践し、ライフサイクルコストの低減化をめざしていきます。

(エ) 複合化された施設としての必要経費

本施設は、市街地再開発事業で整備される施設の一部となることから、単独施設と異なり、共用部分の管理運営等を行う管理組合などの組織とともに施設管理を行うため、共益費、修繕などに向けた積立費、再開発施設全体での広報・宣伝経費、イベント開催費など複合化された施設ならではの経費が発生することが想定されます。

7 整備スケジュール

(1) 整備計画地

所在地：岡山市北区表町三丁目

敷地面積：約 8,630 m²

用途地域：商業地域

建ぺい率：80%

容積率：500%

防火指定：防火地域

【市街地再開発事業の概要】

事業名称：千日前地区第一種市街地再開発事業（仮称）

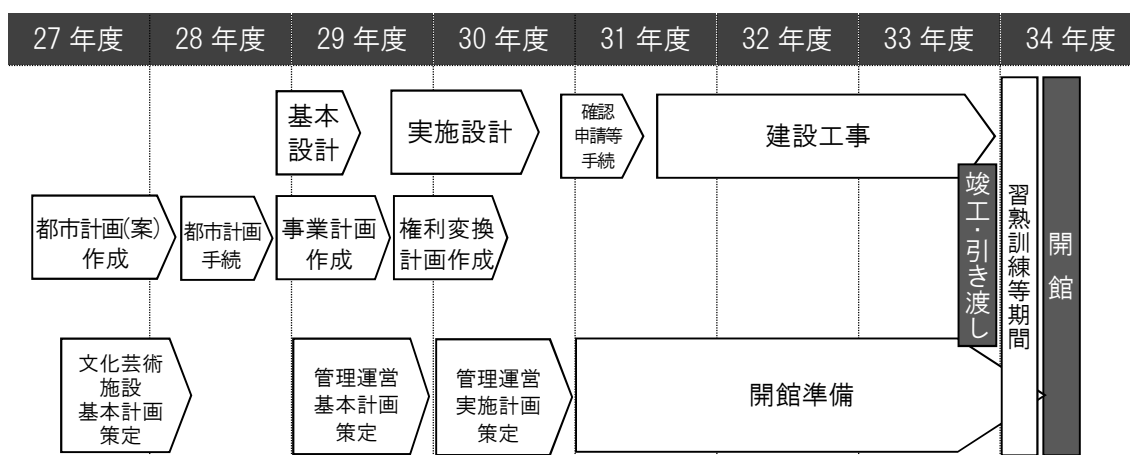
事業経緯：平成 26 年 2 月 千日前地区市街地再開発準備組合設立

所在地：岡山市北区表町三丁目 10、11 街区の一部、23、24 街区

事業完成予定：平成 34 年 3 月（予定）

(2) 整備スケジュールの整理

開館までのスケジュールは以下を想定しています。



(なお、再開発関係のスケジュールは再開発準備組合の予定を参考にしています。)

(3) 開館までの業務

開館までに行うべき業務は次の表のとおりで多岐にわたります。文化事業については、開館後の事業を視野に入れ、開館前から開始するとともに、舞台設備については、特殊な機能を備えることから、開館後の運営体制を踏まえ、できるだけ早期から専門性を備えた劇場・音楽堂等施設での業務経験を有する人材を配置し、開館までの業務を推進することが必要となります。

事業や施設運営関連に関しては、今後の管理運営計画等の中で詳細な検討を行います。

分類	主な業務
全般	開設準備業務の進行管理 設置条例や規則の整備 庁内および区内施設等との調整 組織検討 収支計画の検討 評価のあり方検討 など
施設整備関連	施工状況の現場確認 備品計画 など
事業関連	通年事業計画の策定 開館記念事業（開館記念式典/開館記念公演）の検討および企画 <u>プレイベント</u> の検討および実施 広報計画の策定 チケットシステムの検討 など
施設運営関連	施設貸出の規則検討 施設運営マニュアルの検討・作成 など
舞台技術関連	舞台設備に関する調整および工事等の現場確認 設備・技術運営マニュアルの作成 貸館システムの構築補助 舞台備品調達計画の作成 開館記念事業及び自主事業等の技術マネジメント 貸館のための舞台関連資料作成 など

【市街地再開発事業の中で整備される複合施設として想定される業務】

- 施設全体としての施設維持管理計画の作成
- 地域の賑わいづくりのための活動計画
- 施設全体での広報・宣伝・営業活動

(4) 今後の検討課題の整理

ア 地域の活性化と継続的な賑わい創出に向けた検討

岡山市の中心市街地の一角における新しい文化芸術施設の整備であり、まちづくりの視点から、周辺街区も含めた地域一帯の賑わいの創出や回遊性の向上のための方策など、市街地活性化に向けた取り組みが欠かせません。本施設の整備に合わせ、地域全体の活性化と継続的な賑わいの創出につなげていくための仕組みづくりが求められます。

イ 再開発施設としての検討

本施設は市街地再開発事業により整備されます。地域の活性化、賑わいづくりのため、複合化される本施設以外の施設部分との連携体制や管理システムなどを検討していく必要があります。

ウ 整備推進体制の構築

施設整備を進めていくためには、市街地再開発、建築、文化事業、運営など専門的知見を備えた専任の推進体制を早期に整えることが必要です。また、この推進体制の中に実際の施設運営に関わる専門人材を早い時期に配置することで、具体的な施設計画の立案から、整備、運営を円滑に推進できるようにします。

エ 事業内容・管理運営の検討

本基本計画でまとめた本施設の方向性を実現させるために、事業の具体的な内容や施設の管理運営の考え方をどのように実現させていくかの手法を検討していく必要があります。特に、運営母体については、施設計画の早い段階から検討を進めるとともに早期の具体的な組織化と開館に向けた対応を進めていくことが必要です。

オ 公共交通からのアクセス性の向上

多くの人を本施設へ迎え入れるためには、岡山市の公共交通の大きな柱である岡山駅から、整備予定地へ容易にアクセスできることが重要です。路面電車、バスなど公共交通を用いたアクセスの利便性を高める工夫を検討します。

カ 駐車場の検討

本施設には、駐車場附置の義務があります。駐車場をどのように施設内及び周辺地域の中で計画していくかを検討する必要があります。

キ 施設整備情報の公開と市民意見の聴取

本施設の整備については、計画の進捗状況に関わる情報公開と、市民意見の反映を前提とした意見聴取を適宜実施していきます。そのことにより市民の理解を深めるとともに、本施設への親和性を高めることが期待できます。

新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画 用語説明 (50音順)

単 語	意 味
あ ITV(アイティーブイ)設備	公演や舞台作業の進行を視覚的に監視するために設けるカメラと受像装置からなるシステムの総称。
アウトリーチ	「手を伸ばすこと」を意味し、文化や芸術に接する機会や関心を高めるため、劇場やホールから必要とするところに出かけて、その魅力を届けようとする取り組み。
アートマネージャー	音楽や演劇、ダンスなどの芸術と地域社会を結ぶ事業や活動を企画し、実施するための職能。
アップパーホリゾントライト	舞台背景となるホリゾン幕を均質に照らすための舞台照明器具で、ホリゾン幕と平行に上部に吊り下げる。
暗転幕	緞帳の直後に近接して吊り下げる黒色でヒダなしの幕。舞台転換時に主舞台を隠すために昇降させる。
一文字幕	主舞台上部に舞台間口一杯の幅に吊られる細長い黒色の幕で、客席のサイトラインから舞台上部に吊り下げられた大道具や舞台照明を隠すために、舞台間口と平行に数枚を吊り下げる。一般に袖幕と対で設置される。
移動型調光器	舞台照明を調光するための装置で、移動が可能なタイプ。
イニシャルコスト	初期投資費用のこと。施設や設備を整備するために必要な経費。
インテリジェント機能	漏電や無負荷、温度異常などを検知し、その状態を調光操作卓で監視できる機能。
ウールサージ	光沢が無い毛織物で、遮光性に優れた布素材。一文字幕や袖幕に使用されることが多い。
ウォールスピーカ	客席の側面や背面に取り付けるスピーカで、舞台効果音の再生に使用されることが多い。
NC(エヌシー：NC-20等、NC値)	騒音に対する静音性の基準値 (Noise Criteria)。
大黒幕	舞台最奥に吊り下げる舞台背景となるホリゾン幕のすぐ前に吊られる黒色の幕で、ホリゾン幕を隠したり、舞台背景を黒くするために使用される舞台幕。
オーケストラピット	オペラやバレエなどでオーケストラが演奏するために主舞台と客席の間に設けられた掘り込み。
オーケストラピット迫(ぜり)	舞台床設備のひとつで、オペラやバレエなどでオーケストラが演奏するオーケストラピットの床高さを必要に応じて昇降させるための迫。前舞台や客席ワゴンを乗せることで客席にも可変させることができる。
オペラカーテン	舞台と客席を仕切るための緞帳の一種で、開閉、昇降、絞りの機能を一体で備えた舞台幕設備。オペラやバレエなどの上演で使用されることが多い。
音響反射板	舞台上の生音を効果的に客席に響かせるように設置する反射板。正面反射板、側面反射板、天井反射板で構成される。
音響反射板ライト	音響反射板の天井に埋め込んで舞台を照射するための照明器具。

単 語	意 味
か	仮設テーブル 稽古や仕込み等の際に、演出家や各種デザイナーが作業をしたり、調整卓を仮設して本番用のデータを調整するため、一時的に客席内に設置する仮設のテーブル。
	(仮設)脇花道 仮設式の花道（廊下状の演技エリア）の内、舞台から客席両壁面に沿って斜めに設置される花道。主に下手側（舞台に向かって左側）に設置されることが多い。
	ガルウイング 大型搬入車両などで、荷台が横跳ね上げ式で開閉できるようになっている形状。
	側舞台(舞台袖) 主舞台の両側に設けられている副舞台で、客席のサイトラインからは袖幕で仕切られており、転換のための大道具や出番を待つ出演者が控える空間として使われる。
	技術ギャラリー 舞台照明・舞台音響機材などを設置することができる、演技エリアを取り囲む回廊状のスペース。
	客席ワゴン 客席を固定した可動客席床のことで、オーケストラピット迫に乗せて床下に沈下させ、客席下の収納庫にスライドさせて収納することができる装置。
	キャットウォーク 舞台や客席などの上部あるいは天井裏に設置された作業用通路。
	化粧前 楽屋でメイクをするためのテーブルで、メイク用の鏡と照明がセットになっている。
	建築環境総合性能評価システム(CASBEE) 建築物を省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用などの環境配慮や、室内の快適性、景観への配慮なども含めた環境性能によって評価し、格付けするシステム。
さ	再生可能エネルギー 熱利用時に二酸化炭素をほとんど排出せず、資源が枯渇せず繰り返し使うことができるエネルギー。法律には、エネルギー源として永続的に利用することができるものと認められるものとして、「太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマス」の7つが規定されている。（エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律施行令 第4条）
	最大視距離 主舞台の演技を行う中心部分から最後部客席までの直線距離。
	サイトライン 客席から舞台上を見る観客の視線。
	サスペンションライト 舞台及び客席上部に吊り下げられたスポットライトの総称。
	シーリングスピーカ 客席天井に設置された効果用スピーカ。
	シーリングライト 客席天井部から主舞台を投光するために設けるスポットライト。通常、舞台間口と平行に客席天井に設けられたシーリングライト投光室から投光する。劇場規模によっては、複数列設けることがある。
	主舞台 主に演技を行う舞台部で、客席から観える舞台部分。
	袖幕 客席のサイトラインから側舞台を隠すために設置する黒色の幕で、一般に一文字幕と対で舞台奥行き方向に複数枚設置する。

	単 語	意 味
た	チケットカウンター	公演などの入場券を販売するためのカウンターあるいは窓口。
	吊物設備	舞台機構設備の内、舞台上部に吊り下げて設置される設備の総称。吊物バトンや照明ブリッジ、天井反射板などが含まれる。
	吊物バトン	舞台吊物設備の呼称で、舞台照明器具や幕設備、大道具などを吊り込むため舞台上部のすのこからワイヤーで吊下げ昇降させることができる細長いパイプ状（角形状や梯子場もある）の装置。
	東西幕	舞台の間口と直角方向に設置し、主舞台と側舞台を仕切るために用いる黒色の幕地。
	トータルタワーライト	プロセニウム裏、上下の側壁から舞台前部を投光するために設けた投光拠点。一般に縦の梯子状にスポットライトを設置する。
	緞帳	舞台と客席を仕切るために昇降する幕。一般に緞帳という場合には、厚手の織物で板状のものをいう。
な	中割幕	主舞台の中ほどに舞台間口と平行に吊り下げられる黒色の幕地で、昇降とともに左右に引き割ることができる幕のことをいう。奥行きのある舞台で、主舞台の奥までを使用しない公演などでは、主舞台を中ほどで仕切って使う場合に使用される。場合によっては引き割ることで、袖幕と兼用することがある。
	奈落	主舞台下部に設けられた副舞台に準ずる空間で、迫によって主舞台に登退場するための出演者や大道具が控えるために利用される。また、舞台備品の一部を一時的に格納するための空間として利用することもある。
	難聴者支援システム	難聴者に舞台からの音をヘッドセット等を通して聴こえるように支援するシステム。赤外線や磁気誘導ループなどのシステムがある。
	ネーミングライツ	命名権。施設の所有者が命名権を企業などに販売することで、企業名やブランド名などを施設に付けることができ、命名権の対価として施設の建設や運営維持の資金を得ることができる。
は	ハードバックアップ	万一に調整卓が故障した際に瞬時の切り換えが可能なように、同じ操作卓を複数台設置し連動させること。
	ハイキューブ牽引車両	40ft 用コンテナの内、高さ（外寸法）が 2,896 ミリメートルの高さのものを牽引する車両。
	バルコニーライト	バルコニー客席の先端に取り付け、演出に用いられる舞台照明器具。
	引割幕	舞台中央から左右に開閉させることと昇降させることで、緞帳と同じように舞台と客席を仕切る役割を担う。オペラカーテンの絞り機能がないものをいう。
	フィードバックスピーカー	舞台上の出演者に自らの演奏音や歌声を聞かせるためのスピーカ。F Bスピーカともいう。
	フォロースポットライト	客席最後部の天井付近に設け、出演者や舞台装置の動きに合わせて投光するためのスポットライト。
	舞台迫（ぜり）	舞台床設備のひとつで、主舞台下部（奈落）から出演者や大道具などを昇降させる装置。大きさや機能によって大迫、小迫と呼ぶ。また、もっぱら大道具などの昇降に利用する迫を道具迫と呼ぶ。
	舞台袖	※側舞台 を参照

単語	意味
フライギャラリー	主舞台と側舞台の境の上部に設置されている作業用通路のこと。舞台照明やスピーカなどを設置し、主舞台での演出を支援するための機能を担う。
プレイベント	劇場が開館する以前に実施する事業や公演のことで、より多くの市民に施設が整備されることの周知や関心・期待を高めること、さらには施設管理者の訓練、業務への習熟などを目的に行う。
プロセニウム形式	舞台と客席を額縁（プロセニウム）によって区画する舞台形式のこと。
プロセニウムサスペンションライト	客席前部の天井からプロセニウム開口と平行に吊り下げられた舞台照明バトンから、主舞台前部に向けて投光するためのスポットライト。
プロセニウムスピーカ	プロセニウム形式の舞台で、プロセニウム（額縁）の上部に客席方向に向けて設置されるスピーカ。
フロントサイドスピーカ	プロセニウム形式の舞台で、プロセニウム（額縁）の両側に客席方向に向けて設置されるスピーカ。
フロントサイドライト	客席前部の両側壁面から主舞台に向けて投光するためのスポットライト。
ボーダーライト	舞台上部の吊物機構に吊り下げられ、舞台全体を均等に照らすため、レンズで集光しないタイプの樋状の舞台照明設備。
ホワイエ	ロビーに連なる空間で、入場券を確認するもぎり以降、客席入口までの空間。
ま ムービングライト	遠隔操作で灯体が様々な方向に回転し、投光することができる照明器具の総称。調光や色の変化、フォーカスなども同じく遠隔操作ができる。
や ユニバーサルデザイン	年齢や性別、能力、身体の状態などの違いに関係なく、誰もが同じように使うことができるデザインのこと。
ら ライトブリッジ	舞台上部に吊物バトンを平行に吊り下げられたブリッジ（橋）状の舞台照明投光拠点。大型の劇場では複数列設置する。ブリッジ自体は、主舞台上部すのこから舞台機構設備により吊り下げられ、舞台照明の灯体を仕込むためには、舞台床面まで下降し、必要な投光高さまで上昇させて使用することができる。
ライフサイクルコスト	建築物等の企画段階、建設段階、運用管理段階および解体再利用段階までにかかる経費全てを総計した生涯費用。LCCと略すこともある。
レセプションリスト	入場券のもぎりや客席案内、クローク業務などに従事するスタッフの呼称。
ロビー	建物の入口に続く広間のことで、誰でもが無料で利用できる空間。
わ ワークショップ	演奏や演技に親しんだり、技術向上のために行う育成あるいはトレーニングプログラム。

新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画 参考資料

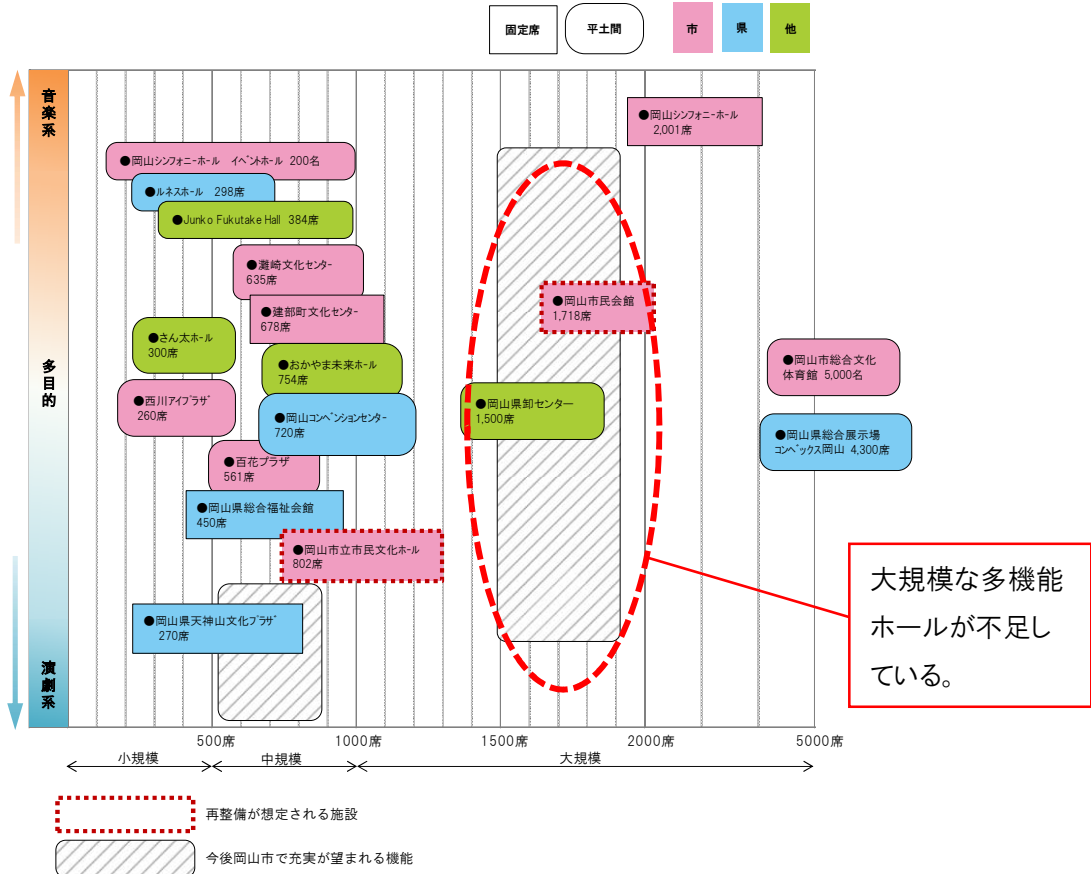
参考資料1 新しい文化芸術施設のホール客席数について [大ホール]

以下の現状および要件整理から、大ホールの客席数は、1,700 席程度が適当であると考えます。

1. 現状

【市内の整備状況】

市内には、様々な舞台芸術の上演が可能な大規模多機能ホールは岡山市民会館のみ。
 ⇒岡山市民会館(1,718 席)の機能を充足する必要がある。

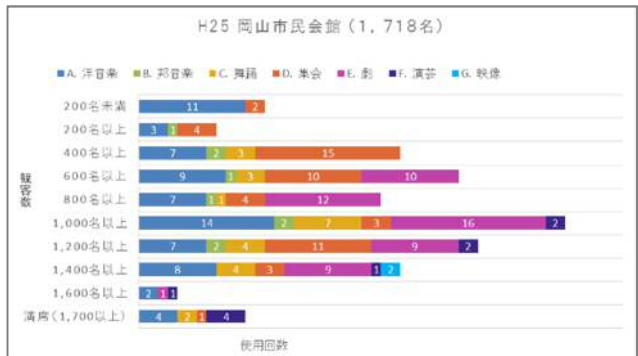


【市民会館の利用状況】

平成 25 年度の市民会館(1,718 席)の観客数別の利用状況をみると、現状の客席数で一定の需要を満たしている。

○岡山市民会館(定員1,718名)

平成25年度	A. 洋音楽	B. 邦音楽	C. 舞踊	D. 集会	E. 劇	F. 演芸	G. 映像	合計
200名未満	11			2				13
200名以上	3	1		4				8
400名以上	7	2	3	15				27
600名以上	9	1	3	10	10			33
800名以上	7	1	1	4	12			25
1,000名以上	14	2	7	3	16	2		44
1,200名以上	7	2	4	11	9	2		35
1,400名以上	8		4	3	9	1	2	27
1,600名以上	2				1	1		4
満席(1,700以上)	4		2	1		4		11
合計	72	9	24	53	57	10	2	227



【中四国地方でのプロモーターの動き】

県内の興行開催数の増加は期待できない。将来にわたり同程度で推移していくと想定される。

2. 要件整理

【「新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画検討懇談会」からの意見】

岡山シンフォニーホール(2,001 席)と役割・機能の分担を明確にする必要がある。

岡山シンフォニーホールも年に数回しか満席にならない。通常の公演は 1,400 席前後が多い。これは岡山のマーケットの問題で、2,000 席の需要は多くはない。アコースティックの音楽は岡山シンフォニーホールで行い、PA を入れた公演や、ミュージカル、オペラなどは新しい文化芸術施設で行うという役割分担を明確にするため、大ホールに音響反射板は不要と考える。

【プロモーター等の意見】

岡山市民会館を利用するプロモーターからは、1,500～2,000 席の意見。

岡山県の商圈ニーズやこれまでの興行実績から、2,000 席のニーズは高くないと考え、1,700～1,800 席を希望する意見が多い。

席数(希望):1,700 席～1,750 席

(岡山市民会館と同規模以上)

2,000 人規模の客席をうめる出演者は多くはない。サンポート高松のような可変客席が理想。

客席数(希望):1,700 席～1,800 席

現状より座席数が多い(最低 50 席程度)ことを望む。

客席数(希望):1,500 席～1,700 席程度

この客席数で、概ねチケット代 7,000 円程度で収支を考えている。

客席数(希望):1,800 席

多くのプロモーター・芸能事務所の意見。最低 1,200 席～1,300 席程度チケットを販売して利益を上げることになる。

客席数(希望):1,700 席(現状維持)

リスクの計算ができる。サンポートホール高松のような可変客席により客席数にあわせた料金設定も良い。現在の市民会館の悪いところを改善すれば、それで良い。2,000 席を埋められない方が厳しい。

客席数(希望):最低 1800 席。理想は 2000 席。1700 席でギリギリ

受託事業などは、岡山市に施設がないため、市民を倉敷市までバス 40～50 台で運んでいるのが現状。ホールは多目的が良い。

【舞台業者(舞台・照明・音響)の意見】

岡山市内で業務を行う舞台等業者からは、1,500～2,500 席の意見。

プロモーターや興行主の意向を汲んで、1,700 席程度以下を希望する意見が多い。

客席数(希望):1,500 席～1,700 席程度

プロモーターからの話をきいて、1,500 席～1,700 席程度が理想。

客席数(希望):1,700 席程度

興行主の意見は、1,700 席程度

客席数(希望):2,500 席程度

2,500 席程度(最低でも 2,000 席)

⇒地域の商圈の可能性と経済波及効果を検証するとこれぐらいは必要と考える。

【敷地条件】

敷地条件から考察した場合、大ホールの客席を 1,700 席程度を超える規模とすると、中ホールの十分な客席数確保が困難であり、また、舞台の規模や機能、他の諸室の配置なども大きく制限される。

【管理コスト】

貸館収入と維持管理費のバランスが良いのは、1,500 席以上 2,000 席未満。

施設の客席規模が大きくなるのに伴い、収入と支出は上昇するが、貸館収入と維持管理費の割合でみると、2,000 席を超えると収支のバランスが悪くなる傾向が見られる。

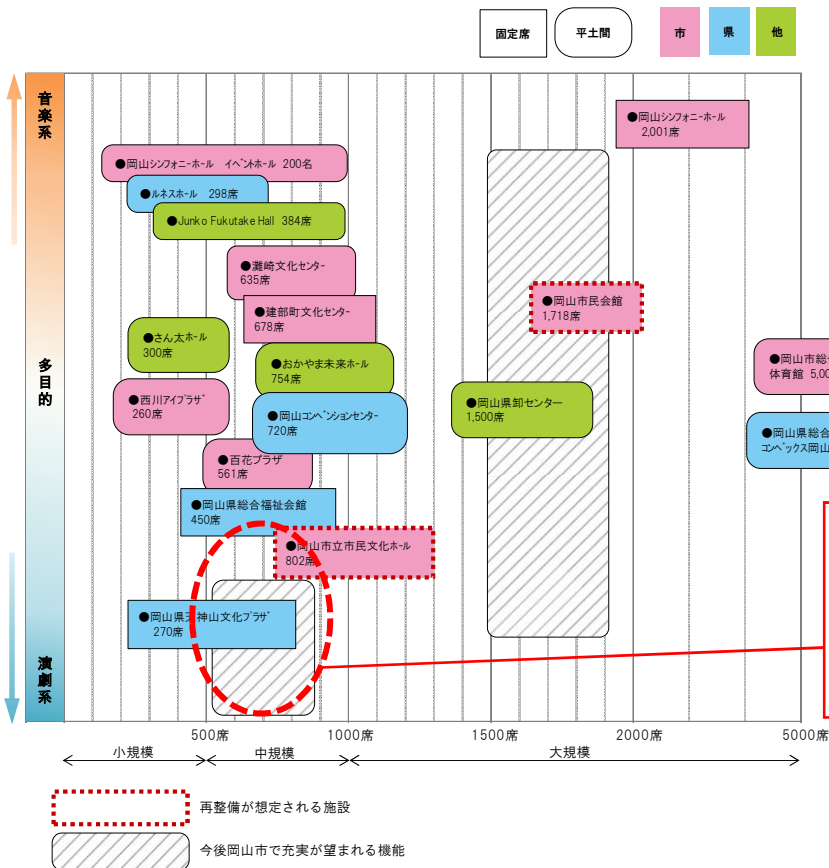
[中ホール]

以下の現状および要件整理から、中ホールの客席数は、800 席程度が適当であると考えます。

1. 現状

【市内の整備状況】

市内中心部には、舞台芸術の上演に適した中規模ホールは市民文化ホールのみ。
 ⇒市民文化ホール(802 席)の機能を充足する必要がある。



舞台芸術の上演に適した中規模ホールが不足している。

【全国の整備状況（舞台芸術・創造事業中心の事例）】

舞台芸術の上演に重きをおく主要な劇場の客席数をみると、200～400 席または 600～800 席が多い。

◎ 舞台芸術の上演に重きを置く主要劇場(全国公演の拠点劇場)事例

施設名称	開館年月日	舞台形式	客席数	階層	特記事項
穂の国とよはし芸術劇場 主ホール	2013年4月30日	プロセニウム形式	778席	2層	芸術アドバイザー: 平田満
東京芸術劇場 プレイハウス	2012年9月1日	プロセニウム形式	834席	2層	オリジナル開館: 1990年10月30日 芸術監督: 野田秀樹
座・高円寺	2009年5月	座・高円寺1	238席	単層	芸術監督: 佐藤信
		座・高円寺2	298席	単層	
豊島区舞台芸術交流センター	2007年9月10日	エンドステージ形式	301席	単層	
天王洲銀河劇場	2006年10月6日	プロセニウム形式	746席	3層	
兵庫県立芸術文化センター 中ホール	2005年10月22日	プロセニウム形式	800席	2層	芸術監督: 佐渡裕、芸術顧問: 山崎正和
吉祥寺シアター	2005年5月21日	エンドステージ形式	239席	単層	
北九州芸術劇場 中ホール	2003年8月11日	プロセニウム形式	700席	2層	
新潟市民芸術文化会館 劇場	1998年10月22日	プロセニウム形式	868席	単層	演劇部門芸術監督: 菅部博司、Noism芸術監督: 金森謙
世田谷パブリックシアター	1997年	主劇場	600席	3層	芸術監督: 佐藤信⇒野村萬斎
		シアターラム	200席	平土間	
静岡県舞台芸術センター 静岡芸術劇場	1997年	エンドステージ形式	401席	2層	芸術総監督: 鈴木忠志⇒宮城聰
紀伊国屋サザンシアター	1996年10月	プロセニウム形式	468席	単層	
能登演劇堂	1995年5月12日	プロセニウム形式	651席	単層	名誉館長: 仲代達也(無名塾)
彩の国さいたま芸術劇場	1994年	大ホール	776席	2層	芸術監督: 蛭川幸雄
		小ホール	346席	単層	
水戸芸術館 ACM劇場	1990年3月22日	エンドステージ形式	636席	3層	演劇部門劇場総監督: 松本小四郎
Bunkamuraシアターコクーン	1989年9月3日	プロセニウム形式	747席	3層	芸術監督: 車田和美⇒蛭川幸雄
銀座セゾン劇場	1987年3月7日	プロセニウム形式	772席	単層	
本多劇場	1982年11月3日	プロセニウム形式	386席	単層	
俳優座劇場	1980年9月	プロセニウム形式	300席	単層	
兵庫県立尼崎青少年創造劇場 大ホール	1978年	プロセニウム形式	396席	単層	中ホール(200席)、小ホール(100席)
PARCO劇場	1973年5月23日	プロセニウム形式	458席	単層	元西武劇場
紀伊国屋ホール	1964年	プロセニウム形式	418席	単層	
文学座アトリエ	1950年	オープン形式	200席	単層	
三越劇場	1927年4月	プロセニウム形式	514席	2層	

■: 600～699席 ■: 700～799席 ■: 800席以上

【市民文化ホールの利用状況】

平成 25 年度の市民文化ホール(802 席)の観客数別の利用状況をみると、現状の客席数で一定の需要を満たしている。

○市民文化ホール（定員 802 名）

平成25年度	A. 洋音楽	B. 邦音楽	C. 舞踊	D. 集会	E. 劇	F. 演芸	G. 映像	合 計
200名未満	2	1						3
200名以上	5	1			1			7
400名以上	14	2	4	5	1	2		28
600名以上	6		9	6	21	2		44
満席（802以上）	3	3	2	2	8			18
合 計	30	7	13	11	31	4	0	100



2. 要件整理

【「新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画検討懇談会」からの意見】

基本計画検討懇談会からは、500～900 席の意見。

「演劇に適した規模」「臨場感を保てる規模」「市民団体の活動における使いやすさ」などの理由から、700 席程度以下が好ましいとする意見が多い。

演劇に適した劇場としては 700 席でも大きい。900 席は大きすぎる。

500～700 席程度が市民団体の活動などでも使いやすく、稼働率も良いのではないかと。

演劇上の効果からすると小さいほうが良いが、経済面とのバランスを考えると、中ホールは 900 席規模が必要。900 席を 450 席で区切れるようにしたら、小さいホールとしても使え、稼働率が上がるとの地元演劇関係者の意見がある。700 席では小さい。

出演者に聞くと、観客との臨場感などから 350 席程度を好む人が多いが、採算の話をするると、700 席程度必要と聞く。臨場感を保てる規模感としても 700 席が上限と考える。

【舞台芸術(演劇・ダンス等)上演に重心を置く他都市の公立文化施設の意見】

700 席程度が観客からは観やすく、出演者からは使いやすいと好評を受ける意見が多い。

演劇上演を目的として設計された 700 席程度の劇場は、舞台と客席が近く、役者のせりふやダンサーの息づかい等、演劇作品に集中できる空間。

700 席程度の劇場は、演劇公演にとっても良い空間であり、観客や出演者、スタッフに観やすく使いやすいと好評の規模。

【プロモーター等の意見】

プロモーター等からは、500～1,000 席の意見。

大ホールと中ホールの客席数の明確な差を求め、800 席程度を希望する意見が多い。

客席数(希望): **500 席～600 席**

大ホールとの差をはっきりさせて欲しい。

客席数(希望): **800～1,000 席**

大ホール 1,800 席程度なら 800～1,000 席がよい。

客席数(希望): **800 席(現状維持)**

100 席少なくとも良い。ただし、ロールバックチェアは NG。(固定席が必要)

客席数(希望): **800 席**

大ホールと明確な差をつけて欲しい。

【舞台業者（舞台・照明・音響）の意見】

岡山市内で業務を行う舞台等業者からは、500～800 席の範囲内を希望する意見が多い。

客席数(希望): **500 席～600 席**

500～600 席(演出効果等を考慮すると理想的、大ホールとの差別化は必要である)。

客席数(希望): **500 席～800 席程度**

市民団体の活動状況等から、500 席～800 席程度が利用しやすい。

客席数(希望): **800 席程度**

興行主の意見は、800 席程度。

【敷地条件】

敷地条件から考察した場合、中ホールの客席を 800 席程度を超える規模とすると、大ホールの十分な客席数確保が困難であり、また、舞台の規模や機能、他の諸室の配置なども大きく制限される。

【管理コスト】

市民文化ホール(802 席)の管理実績、使用状況から、岡山商圏において、800 席程度の施設は収支予測が立てやすい。

参考資料2 プロモーター等の意見聴取 まとめ

項目	A社	B社
千日前地区の立地について（公共交通などの客の誘導に求めるもの など）	○岡山駅からホールまでお客様を誘導する動線の確保が重要と考える（路面電車の運行本数の確保など公共交通機関の充実）。特に終演後の交通手段の確保。	○岡山駅から遠い感覚はない。倉敷市民会館に比べたら近い。全く問題ないと思う。
必要と考える客席数とその理由 【大ホール】	○1,700席～1,750席。（岡山市市民会館と同規模以上） キャパ2,000人をうめる出演者は多くはない。2,000人規模なら倉敷市民会館を使えば良い。サンポート高松のような可変客席が理想。	○1,700席～1,800席。（倉敷市と使分ける） 現状より座席数が多い（最低50席程度）ことを望む。ただし、倉敷市同一の搬入条件の2,000席の箱なら選択肢が増えるので有難い。
必要と考える客席数とその理由 【中ホール】	○500席～600席。 大ホールとの差をはっきりさせて欲しい。ちなみに興行をするなら、1,200席があっても良い。	○大ホールの客席が可変で1,000～1,200席程度にできるなら500～600席。1,800席で固定なら800～1,000席。
諸室機能について（録音室、作業場、多目的室、リハーサル室、楽屋数 など）	○十分に動線、配置を考えたゆとりのある物販スペース。 ○ゆとりのある楽屋スペースや室数。 なお、楽屋スペースには、冷蔵庫、洗濯機、乾燥機、無線LANは最低限必要です。	○十分に動線、配置を考えたゆとりのある物販スペース。 ○大ホール・中ホールエリアをきちんとわける。特にお客様入口には十分な配慮が必要（お客が迷わないように…）。
舞台機能について（舞台（袖）のサイズ、荷重バトン、音響反射板 など）	○大ホール舞台は倉敷市民会館程度が理想。下手袖は必要。 ○音響反射板は不要。	○大ホール舞台は倉敷市民会館より少し大きく（リーデンローズ、とりぎんホールくらいあれば十分）。 ○音響反射板は不要。 ○中ホールは倉敷芸文館くらいが理想。
搬入条件について（11tトラックの使用頻度、お客用バス利用頻度 など）	○搬入用11tトラックは2台留置きできればなんとかなる。 ○通常11t4～5台。公演によるが11tトラックが最大8台の場合も、敷地外で良いので近郊に5台程度駐車できるスペースを確保して欲しい。	○フラットの搬入が理想。EVでも配慮があればOK。 ○搬入用11tトラックは2台留置き。さらに公演前日から駐車を可として欲しい。
施設運営について（料金設定、開館時間、施設予約の時期など）	○料金は現市民会館より少々高くてもOK。 ○開館時間（9:00～22:00）の前後2時間も対応が必要。（年間5～6本は24:00までかかる） ○予約開始時期は1年前でOK。	○料金は現市民会館より少々高くてもOK。 ○開館時間（9:00～22:00）の前後2時間も対応が必要。 ○予約開始時期は1年前でOKだが、抽選はやめて欲しい。 ○予約直後からキャンセル料が発生するのは厳しい。
喫煙室、喫煙スペースについて	○楽屋ゾーンに共通の喫煙スペース（出演者・スタッフ用）は欲しい。さらに楽屋の一つは喫煙可になると良い。	○出演者用は必要。観客用もあるほうが良い（現在は、再入場等の管理に手間がかかっている）。
その他	○舞台の作り手（舞台装置・音響・照明）の意見を積極的に聞いてほしい。 ○現施設は、絶対的にお客様ロビー（チケットをもぎる前のお客様を待たせるスペース）が狭い。新しいホールではこの点の改善は必須と考えます。 ○当日券売り場、物販スペース（入場しない人にも販売できる場所が望ましい）が欲しい。	○施設のルールは守るが、施設側にも音楽業界の流れを理解して欲しい。 ○J-POP系のコンサートは、ツアー全体で収支を考えると、一公演のチケット販売はそれほど重要でない。事務所サイドから、満席率（見目の客入り、出演者の看板への配慮）のほうに指示がでる。 ○2,000席以上の出演者は広島・大阪のアリーナで行うので、岡山市にそこまでは求めていないが、2,000席のホールができれば、2,000席を埋められる出演者のコンサートを岡山で開催する機会は増える可能性はある。

項目	C社	D社
千日前地区の立地について（公共交通などの客の誘導に求めるもの など）	○これまでのお客様になじみのない場所。 岡山駅から現市民会館までの距離感がお客様になじみがあるもの。バス、タクシー、路面電車などの公共交通機関の充実が必要である。	○岡山駅からは十分近い。 お客様も公共交通機関を利用してくれるのでは？
必要と考える客席数とその理由 【大ホール】	○1,500席～1,700席程度。 この客席数で、概ねチケット代 7,000円程度で収支を考えています。	○1,800席。 多くのプロモーター・芸能事務所の意見。 1,200席～1,300席程度チケットを最低販売して利益を上げることになる。
必要と考える客席数とその理由 【中ホール】	○800席程度。 演芸などはこのキャパ収支を考える。	○500席。 地元の文化団体に積極的に利用してもらえば、大ホールとの棲み分けになる。
諸室機能について（録音室、作業場、多目的室、リハーサル室、楽屋数 など）	○主催者用の控室が必要。 ○十分に動線、配置を考えたゆとりのある物販スペース。 ○広いお客様用のロビーは必要。	○十分な数の楽屋。（一部はトイレ付） ○会議室。（ミーティングルーム）
舞台機能について（舞台（袖）のサイズ、荷重バトン、音響反射板 など）	○ゆとりのある荷重バトン。 ○音響反射板は不要。 ○音響装置等の持ち込みを考えたスペース・動線。 ○舞台サイズは現市民会館で十分。ただし、袖の広さで搬入時間が変わる。	○搬入口の近くに舞台袖があり、大きいものの方が良い。 ○大ホールに音響反射板は必要。（岡山市民会館で利用しているから）
搬入条件について（11tトラックの使用頻度、お客用バス利用頻度 など）	○搬入用 11tトラックは 2 台留置き。 ○主催者用の駐車スペース(5 台程度)が必要。 ○前日入りすることがあるので止められる場所がほしい。	○搬入用 11tトラックは最低 2 台は留置きできること。 ○主催者、スタッフ用駐車場が必要。 ○出演者用バスの乗降場が必要。
施設運営について（料金設定、開館時間、施設予約の時期 など）	○料金はリーデンローズが安くて良い。 ○開館時間(9:00～22:00)の前後 2 時間も対応が必要。 ○予約開始時期は 1 年前でOK。	○現市民会館の料金は低くて良い。 ○開館時間(9:00～22:00)の前後 2 時間も対応が必要。 ○予約開始時期は 1 年前でOK。
喫煙室、喫煙スペースについて	○出演者用は必要である。	○お客と分離した場所に出演者用の喫煙スペースは必要。（分煙ブース、さらにメインは楽屋で喫煙可が理想）
その他	○十分な数の女性用トイレ。 ○楽屋に専用トイレがある部屋を一つは用意して欲しい。 ○客席番号はシンプルなものが良い。（LR表示などは混乱する。発券の際に間違い易い。） ○裏と表の動線の確保。 ○各ホール間の干渉がないように。	○舞台（音響・照明）に係わっている人の意見を聞いて欲しい。 ○楽屋廊下にエアコンが必要。 ○搬入口・舞台・楽屋が同一フロアにあることが理想。 ○大ホールの床面にカーペット貼りはNG。

項目	E社	F社
千日前地区の立地について（公共交通などの客の誘導に求めるもの など）	<ul style="list-style-type: none"> ○土日公演が多いが、以前は平日も多かった。平日は夜公演になるが21時終演で女性が一人で歩くことを考えるとイメージが悪い。カフェが併設で夜遅くまでやっているなど工夫が必要。 ○岡山の方は市民会館までの距離感に慣れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○千日前でも天神町でも変わらない。アーケードがあるので天気を気にしないで行ける。バスステーションからも近い。 ○賑わいをつくるには限界を変える必要がある。施設を使ってもらわないと賑わいは生まれない。
必要と考える客席数とその理由 【大ホール】	<ul style="list-style-type: none"> ○現状維持の1,700席。リスクの計算ができる。サンポートホール高松のような可変客席により客席数にあわせた料金設定も良い。現在の市民会館の悪いところを改善すれば、それで良い。2,000席を埋められない方が厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○座席数は最低1,800席。理想は2,000席。1,700席でギリギリ。岡山市に箱がないから市内の人を倉敷までバス40～50台で運んでいるのが現状。ホールは多目的が良い。
必要と考える客席数とその理由 【中ホール】	<ul style="list-style-type: none"> ○現状維持の800席。100席少なくとも良い。ただし、ロールバックチェアはNG。 	<ul style="list-style-type: none"> ○800席。大ホールと明確な差をつけて欲しい。
諸室機能について（録音室、作業場、多目的室、リハーサル室、楽屋数 など）	<ul style="list-style-type: none"> ○十分な広さの楽屋・ロビーの確保。（劇団四季だとスタッフ・出演者あわせて50人になる） ○リハーサル室は必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広い楽屋、バックステージ、主催者用の控室。 ○楽屋まわりのセキュリティの強化。 ○タレントの動線確保。（楽屋口に車を横付） ○十分に動線、配置を考えたゆとりのある物販スペース。
舞台機能について（舞台（袖）のサイズ、荷重バトン、音響反射板 など）	<ul style="list-style-type: none"> ○舞台サイズは現市民会館でOK。 ○音響反射板は利用しない。使うものは岡山シンフォニーを利用する。シンフォニーと使い方を分担すればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○倉敷市民会館くらいの舞台サイズがあれば、収まらない演目はない。 ○音響反射板は必要なし。
搬入条件について（11tトラックの使用頻度、お客用バス利用頻度 など）	<ul style="list-style-type: none"> ○大ホール搬入用11tトラック3～4台（最低2台）は留置き。 ○中ホール搬入用11tトラック1台分のスペースは必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お客様用（コンベンション関係等）のバスの乗降スペースは必須。40～50台程度を想定。 ○フラットで11tトラック2台、4tトラック2台程度が同時に荷捌き。
施設運営について（料金設定、開館時間、施設予約の時期 など）	<ul style="list-style-type: none"> ○料金は現市民会館は安い。 ○開館時間（9:00～22:00）の前後2時間も対応が必要。 ○予約開始時期は1年前でOK。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の市民会館は料金は安いので、同じ程度が理想。 ○予約開始時期は1年前でOKだが、毎年使用実績のある利用者には平日だけでも優先予約させて欲しい。 ○倉敷のように水曜定休等はやめて欲しい。
喫煙室、喫煙スペースについて	<ul style="list-style-type: none"> ○雨露しのげて喫える場所が用意されていれば、楽屋内は禁煙でもOK。楽屋エリアにスペースがあれば、そこまで出演者は行くだらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出演者の喫煙コーナーは必要。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○バリアフリーには十分配慮してほしい。施設側の手を煩わせなくても客席まで行けるようにEV設置など動線の確保が必要。 ○セキュリティが厳しすぎるのはNG。人手がかかる。 ○開場までお客様が待つスペース（ロビー）に十分な配慮が必要。 ○中途半端な数の客用駐車場はトラブルのもと、ない方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○香川県アルファあなぶきホールや福山市のリーデンローズの舞台機構・搬入条件は非常に参考になる。 ○トイレの数を極力増やして欲しい。男女比を半々にする必要はない。 ○アルバイト用の手荷物置場や休憩スペースを確保して欲しい。 ○座席の席割はシンプルでわかり易いものにして欲しい。 ○客席に音響席スペースを設けて欲しい。 ○ホール内ホワイエにEVがないのはよくない。 ○出演者はケータリングで暖かいものの要望もあるので、飲食施設が複合施設内に入っているといい。

参考資料3 舞台・照明・音響業者の意見聴取 まとめ

項目	意見内容（5業者からの聴取内容）
千日前地区の立地について（公共交通などの客の誘導に求めるもの など）	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地再開発事業などにおける複合施設は、搬入等の際に様々な制約があるため利用しにくい。岡山シンフォニーホールのようになるのではと心配。 ○搬入条件が良くなるなら、千日前地区でも歓迎。
必要と考える客席数とその理由 【大ホール】	<ul style="list-style-type: none"> ○大ホールは2,500席程度（最低でも2,000席）必要。地域の商圏の可能性と経済波及効果を検証するとこれぐらいは必要と考える。 ○プロモーターからの話をきいて1,500席～1,700席程度が理想。 ○興行主の意見は、1,700席程度。
必要と考える客席数とその理由 【中ホール】	<ul style="list-style-type: none"> ○500～600席がよい。（演出効果等を考慮すると理想的、大ホールとの差別化は必要である） ○市民団体の活動状況等から500席～800席程度が利用しやすい。 ○興行主の意見は、800席程度。
諸室機能について（録音室、作業場、多目的室、リハーサル室、楽屋数 など）	<ul style="list-style-type: none"> ○搬入口と舞台袖の間に「荷捌き場」が欲しい。 ○舞台が階上にあっても、ゆとりのある荷捌きスペースと十分な搬入用エレベーターがあるなら問題なし。 ○オペレータスタッフの控室・荷物置き場は必要。 ○国際会議などを想定して、同時通訳用のブースが必要。 ○舞台に近い位置（1F奥）に調光室・音響室が必要。可搬式の音響・照明卓を使う場合も多いが、ブースは必要。 ○スタッフの手荷物を置くスペースが欲しい。 ○コインロッカーが欲しい。 ○調光室、音響室は1Fセンターの位置が理想。
舞台機能について（舞台（袖）のサイズ、荷重バトン、音響反射板 など）	<ul style="list-style-type: none"> ○大ホールと中ホールは同じ舞台サイズが理想。（同じ演目をどちらでも設営できるので選択肢が増える） ○ピンスポットは最低4台は必要。 ○舞台のアクトエリアは18m×18mあれば良い。 ○舞台のアクトエリアは11間×11間あれば十分な広さ。開口部の高さは15m程度（スノコ高は25m）は必要。 ○少なくとも片方の袖はアクトエリアと同じサイズが必要（荷捌き・叩き場として利用するため）。 ○舞台の迫は必要ない。 ○大ホールと中ホールのアクトエリアは同サイズでも良い。 ○プロセニアムの開口部の高さは15m程度は欲しい。（現状の催事で使用する高さの最大値） ○荷重バトンは電動と手引きの両方あると良い。（一部は手引き式にして欲しい。） ○シーリングライトなどの位置が舞台のセンターになるようにしていただきたい。
搬入条件について（11tトラックの使用頻度、お客用バス利用頻度 など）	<ul style="list-style-type: none"> ○2階より上に舞台をつくるのなら十分な搬入用エレベーターは必要。上・下両袖にあるのが理想。 ○11t車2台は留置きできるようにしてほしい。 ○荷捌き室はセットが組める広さが理想。 ○最近の音楽コンサートで利用する搬入車両は11tトラックで6～7台が普通である。最低でも11tトラック2台は留置きできないとダメ。 ○搬入口と舞台袖の間に「荷捌き場」が欲しい。 ○荷捌き室があると良い。 ○大ホールと中ホールの搬入口は別々が良い。 ○荷捌き用にプラットホームは必要。 ○搬入口へ搬入車両を乗り入れでき、荷捌きができる十分な天井高。 ○搬入口は大・中それぞれ専用とし、プライバシーを確保する。パテント、企業秘密等があるため。

項目	意見内容（５業者からの聴取内容）
施設運営について (料金設定、開館時間、施設予約の時期など)	<ul style="list-style-type: none"> ○管理組織について、施設管理の下に技術管理があるべき。 ○舞台のバラシに２時間程度はかかる場合が多いので、開館時間等の運営面での配慮が欲しい。
喫煙室、喫煙スペースについて	<ul style="list-style-type: none"> ○喫煙できる場所(分煙スペース)は必要と考える。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○十分な容量の電気設備・荷重バトンと十分な大きさのハコ(舞台サイズ)があれば良い。無駄にこった設備は不要(音響・照明・舞台装置)。必要な場合に外から入れれば良い。 ○年に数回しか使わない舞台備品を保管しておくスペースが無駄なので、最初から配置しておく舞台備品については十分に検討してもらいたい。 ○音響、舞台装置の進化は落ち着いているが、照明はこれからどんどん変化するので注意が必要。 ○音漏れ(騒音)には注意してほしい。 ○施設整備の際には、音響、照明、舞台設備などの専門家(コーディネーター)を配置し、常に設計等を見張っておく必要がある。 ○設備関係では、配線等のリダンダント(冗長化)は必須。一系統が故障した場合のリスク回避を考える必要がある。 ○複合施設になるので音響には十分な配慮が必要になる。特に振動への配慮は多角的に行っておかないと、どこに影響がでるかかわからない。 ○施設管理には、音響・照明・舞台装置それぞれに専門家を配置する必要があり、さらには今後はインフラ(ネットワーク)系の専門家が必要になる。 ○大ホールの音響・照明は可搬型が主流になるので、舞台に設置するのは最低限で良く、舞台へつなげられるようにするための配慮が必要。 ○開館時に最新の設備を配置するためにも、設備部分の発注は可能な限り遅くする方が良い。特に、照明関係ではLED照明が進化の過渡期のためかなり変化する可能性が高い。 ○平成30年完成を目指している「高崎文化芸術センター」は市街地再開発事業での整備スキームの参考になると思う。 ○複合施設としては、平成27年春、川越駅西口に「多彩なふれあいによる地域活力の創造拠点」をコンセプトに、川越市・埼玉県・民間事業者が整備した「ウェスタ川越」が参考になると思う。 ○工作室は大ホールとの連携が必要だが、貸工具置き場と割り切るのもあり。 ○スタジオの天井はグリッドパイプがよい。 ○ロールバック形式にする場合、客は上から入れるべき。 ○開演前の客が十分並ぶスペースを確保すること。 ○ファームウェアのアップデートなど、今まで想定していなかった費用がかかる。 ○特電の取り出しは分散させる。 ○舞台設営業者の視点から良いホールの条件は <ul style="list-style-type: none"> ①ゆとりのある搬入エリア・条件 ②十分な吊物条件(バトンの数、荷重容量) ③舞台の広さ(11間×11間が理想) ○施設整備にあたりホール建築と音響の専門家は必要になる。 ○大ホールで利用する備品関係は、持ち込みが多いと考えるので、ホールに備え付けた備品は最低限で良いと考える。 ○搬入した機材を入れていた箱を舞台袖に置けるスペースを十分に確保して欲しい。 ○十分な容量の電源の確保。 ○倉敷市芸文館は、中ホールの理想系なので、ぜひ参考にしてもらいたい。 ○大ホール、中ホールのエリアは、スタッフ等が混在しないように、特に搬入エリアは離して欲しい。 ○照明設備は、過渡期であるため施設完成時期にどのようなものを入れるかしっかりと検証する必要がある。

新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画

平成 28 年 6 月

岡山市市民生活局文化振興課

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目 1 - 1

TEL 086-803-1054

FAX 086-803-1763